参考資料１

長期ビジョン策定に係る意見交換会等における主な意見

１	第１回長期ビジョン推進懇話会	Ｐ　１
２	県民への個別ヒアリング	Ｐ　５
３	市町別意見交換会	Ｐ１９
４	世代別意見交換会	Ｐ３７
５	分野別意見交換会	Ｐ４５
６	県外在住者等との意見交換会	Ｐ６７

1　第１回福井県長期ビジョン推進懇話会

○子育て関連

・幼児期の教育には、園での幼児教育、家庭教育、地域の社会教育の３つがバランスよく配置されることが重要である。育児休暇の取得や働きながら時短勤務できる仕組み、また、働いていなくても育児している親をバックアップできるシステムが重要である。

・子育てに関して、休日に子どもを預けて両親がちょっと休憩する時間を持てるということがゆとりにつながるし、まちの発展にもつながっていく。

・地域コミュニティーという言葉が重要であり、地域の中の若者たちがみんなで子どもたちを育てるまちになるといいという思いで活動している。子育てをする上で住みやすいまちになるといいと考えている。

・他県の人から見て良いと思われる子育て環境はさらに伸ばしていくと良い。

○教育関連

・ビジョンを持って、ＡＩを活用していくことが重要。教育を学校だけに任せるだけでなく、地域で子どもを見守って育てていく。その中でＡＩ技術者にもなるクリエイティブな人材が生み出せれば、経済も活性化していく。

・人づくりに関しては、学びの本質は大きい。学びが楽しいと子供たちに思わせる、そして、５教科至上主義をやめて感性教育を進めていくことが大事である。

・ボランティア精神が薄れてきていると感じている。ボランティア精神を子供たちに教えることにより、若者が自分の才能を伸ばして仕事ができ、地域でみんなが頑張れることにつながるので、こういったことを教育の中に取り入れていってほしい。

・産業界では労働力不足は大きな課題。若者が地元に残って活躍するためには、地元愛を育む家庭での教育が重要である。

・敬う、感謝するという根本的なところから教育を見直すべきではないか。

○産業、技術、労働関連

・自動運転、ドローン、遠隔医療などの実験場になる、福井発でやろうという雰囲気ができれば、「選ばれる福井」が実現するのではないか。

・長期ビジョンの中で、どう稼ぐかという１つ目の柱、例えば地域に根付いている福井らしい武器をプロデュースして稼いでいく、そしてどう使うかという２つ目の柱、例えば小さなコストで高齢者のケアやサポートをしていく、という２本立ての観点で考えていくと具体的なビジョンにつながっていく。

・教育水準が高く、まじめで人のためになることを率先してやる福井のスタッフは、

当社の強み。福井の将来のために、若者が戻ってこれる魅力的な企業づくりと、技術革新と福井の人間性の良さを掛け合わせたようなビジネスモデルを作っていくと良い。

・弱みと思われる給与水準などについては、ひっくり返して、給料が高い福井にしていけば良い。労働の課題としては、格差の解消が重要である。将来働く人たちには、ＡＩに使われる労働者ではなく、ＡＩを使う労働者になってもらいたい。

・女性の就業率は高いが、女性管理職比率が低く、改善策について考えていきたい。

○まちづくり関連

・３世代同居などの福井らしさがどういった歴史的背景でそうなったのかを理解し、それを超える新しいものを構築していかないと、２０年後に今より良い環境にすることができない。

・福井という風土、県民が育んできた互助、共助、地域の力を強化しながら福井への愛着や暮らしに対する誇りにつなげていくことが大切である。

・自助、共助、公助がしっかり循環している、そういった福井らしさということを一番大切にしていくべき。また、ファーマーズマーケットのように、地域内の所得の循環に加え、出品者の生きがいづくりなど、プラスの循環ができる社会づくりをしていきたい。

・福井をいかに継続していくか、そのための取組みを下支えしていくような、例えば、町内会長をすると地域ポイントが当たるといった、福井を継続する仕組みを議論していけると良い。

・人材不足を嘆くのではなく、県民一人一人が自分を大切に思える社会、他者を思いやれる社会を目指すことで明るい未来が見えてくるのではないか。

・子どもから高齢者まで地域の皆さんが参加できる活動を農業者と集落が連携して行うことが重要である。

・産業構造の大転換と人口減少の中で、外国人を受け入れていく必要があると考えるが、彼らとどのように一緒に地域を作っていくか考えなければならない。

・東京に流出した学生たちに、どれだけ東京での生活よりも福井に魅力を感じさせることができるかがＵターンを進めるうえで一番重要である。

・大交流化に関しては、インバウンド、海外との交流も入れると良い。

・観光に重点を置いたビジョンを考えていきたい。知名度があるもの、日本一のものがあるといいと考えており、年縞がある水月湖を世界遺産としたい。また、若狭に温泉があるというのも魅力向上につながっていく。

・小浜などの嶺南の良さを県民にまず知ってもらって、発信してもらう必要がある。

○文化、スポーツ

・文化は豊かな社会づくりの基盤として位置付けられてきており、多様な福井の文

化を掘り起こして磨き上げて発信する、文化の力を福井の未来づくりに活かしていく、ということが重要になる。

・福井に残る豊かな文化財の掘り起しや保護団体による福井県の盛り上げやアピール、また、地域の方々に文化に携わってもらうことにより、地域の活性化につなげていきたい。

・スポーツは子供たちの健全育成に重要なものであり、地域でスポーツを指導できる、スポーツの指導者が生活できるような福井県を目指していけると良い。

○医療、福祉

・まちづくりの中で医療をどう展開するか。医療や介護の分野では福井県は良い評価を受けており、人口減少と長寿命化で日本のトップランナーである福井県だからこそできるような施策を進めることが福井らしさにつながる。

○その他

・県民一人ひとりが福井県のビジョンはこうだと言えるようなものをつくり、県と市町が連携して盛り上げていけるようにしてほしい。

・県や市のコンセプトが、これまであまり入ってこなかった。２０４０年の福井というと人ごとになるので、「福井」という言葉を「私」や「僕」に置き換えると多くの意見が出てくると思う。そうした意見を福井に活かしていけると良い。

・自分たちより若い世代の声を拾って、伝えていきたい。

・気候変動に伴う災害や農林水産業への影響、並行して、エネルギーをどういう形で活用していくかが課題になっていく。

2　県民への個別ヒアリング

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

○自然、食

・自然が豊か。海と山が近く、星もきれい。
・田園風景が多く、緑が豊か。
・都市と農村が共存している。
・食べ物（米、野菜、魚、水）がおいしい。

○家庭、地域

・３世代同居率が高く、家族の団らん、古き良き日本がある。
・多くの県民が幸せの源として、家族・友人との関係性を挙げる等、家族力が高い。
・人と人のつながりが深く、地域での協力・思いやりがあり、助け合える。
・住民のコミュニケーションがある。
・地域で世代を超えて協力し合っている。
・一度集落に溶け込んでしまえば、とても居心地が良い。
・良い意味で「狭い」地域。友達の友達、などの関係で物事がうまく進んでいく。
・他県と比較すると、他者への気遣いができ、勤勉で穏やかな気質の県民が多い。
・福井は競争社会でなく、平和に感じる。
・伝統、農業、産業が集積し、地域性を活かした活動が可能である。

○子育て

・同居や近居が多い。近所の住民が子どもを見てくれる等、子育てしやすい。
・子育て支援制度や保育園が充実しており、待機児童がいない。
・無料で利用でき、駐車場代もかからない広い公園やエンゼルランドなど、県外の子育て家庭にとっても魅力的な施設が多い。

○教育

・子どもの学力・体力が高い。
・教育環境が優れている。
・立志式など、福井独自の教育が行われている。

○労働

・教育水準が高く、まじめで人のためになることを率先する人材が多く、企業の強みになっている。
・県外に比べ、地元で採用した若者は「すれていない」。

・共働き率、女性の就業率が高い。

○産業・技術

・伝統産業が残り、進化している。
・世界を代表するものづくり企業がある。
・確かな技術力を持った製造業が多い。
・社長が多く、やる文化、挑戦する文化がある。
・都会では異業種交流の機会をわざわざ設けているが、特に嶺南では異業種交流せざるを得ないため、それがかえって新しい事業展開につながっている。
・人と人の距離が近く、顔が見える関係で商売ができる。
・顔の見える（各々の個性が把握できる）関係で、新しいモノやコトを生み出しやすい。

○まちづくり

・福井ならではの文化や歴史が残っている。
・観光資源が豊富
・海、ゴルフ場、スキー場が１時間圏内にあり、リゾート地に住んでいるよう。
・時間の流れが緩やか。
・都会のような人混みがなく、人間らしい快適な生活を送ることができる。
・日本の中心に位置しており、関西や中京に近い。

○医療、福祉

・健康長寿である。

○安全・安心

・治安が良く、安全安心が確保されている。
・特に嶺南は災害が少ない。

（２）福井県の改善すべきところ

○家庭、地域

・よそ者や変化を嫌う閉鎖的なところがある。
・移住すると自警団に入って飲み会に参加しないといけない、区費を払わないといけない等は、若者にとって面倒なだけ。人とのつながりを求める人だけではない。
・田舎特有のしがらみや締めつけがあり、重荷に感じる人もいる。
・消防団やスポーツなど、地区の行事参加や役割分担が多く、何にでも駆り出されることが負担になっている。
・規範意識への従属、強制化を改めるべき。
・県民の幸福が女性の負担によって成立しているという負の側面が見られ、女性が福井で生活しにくい。
・昔からの価値観が残り、女性の育児等の負担が大きい。
・年配者の発言力が強すぎる。
・福井に「無いもの」を数える傾向があり、「あるもの」探しをしない。
・自分たちの暮らしに誇りをもっていない。
・県民が幸福度日本一を実感できていない（当たり前になっている）。
・都会に対して、強いあこがれを持ちすぎている。
・県内・県外、嶺北・嶺南で区別、差別を意識しすぎており、グローバルな視点、広い視野に欠けている。
・多様性や柔軟性が不足。外国人や障がい者などと共生する環境の構築が必要。
・国際交流の機会が少ない。
・消極的で押しが弱い。
・一生懸命やらなくても、それをあまり負担に感じなくてすむようになるとよい。

○子育て

・核家族であっても、同居と同じようなメリットが受けられる支援対策が必要。
・地域によっては保育園に入りづらい。

○教育

・学力体力の平均以外に、トップ層を伸ばす仕組みも必要。
・高校を卒業した若者が福井に戻ってこない。
・大学の学部が少ない。

○労働

・企業や伝統工芸・技術の後継者不足、人材不足。
・企業のいいところをうまく表現・ＰＲできていない。

・女性の管理職比率が低い。

○産業・技術

・企業の中には、行政が何もしてくれないというネガティブな認識が残っている。自分たちで考え、課題を解決していくといった意識を持つ人が少数派。
・就職先、仕事が少ない。
・働く場の多様化のニーズに対応できていない。
・他県や外国に売れるものが少ない。
・賃金が低い。

○まちづくり

・良い建物などはあるが、まちづくりのデザインがまとまっていない。
・交通の便（電車、バス）が悪く、生活に車が不可欠
・嶺北と嶺南に格差がある。嶺北には県庁や恐竜博物館などがあるが、嶺南は街歩きができない。
・県民自身が盛り上がって、福井を動かすことが必要
・他との比較をやめ、特別感を出すべき。
・伝統工芸や食など良いものはあるが、宣伝がうまくなく、県外に知られていない。
・観光コンテンツはあるが、点で存在してリンクされていない。
・インバウンドや若者向けの宿泊施設が少ない。
・若者にとっては、会社帰りに遊べる場所がなく、退屈に感じる。
・天候に左右されない屋内施設（ドーム型の遊び場）、街歩き用のアーケード、地下街が少ない。
・観光地以外では、福井でしかできないということがない。

○安全・安心

・交通マナーが悪い。

（3）望ましい将来像

〇まちづくり

・福井は知名度が低いため、特徴を出していくべき。「良い田舎」のイメージがついていること
・北欧諸国のような小国ながら強いアイデンティティを持ち、存在感のある地位が築かれていること
・県外の文明と持ち前の温かさをもって歩み寄り、「温故知新」を体現する日本のモデルとなること
・様々なものが進化していくが、現在の価値ある資源を活かし、古きよきものを活かしていくこと
・デザインやものづくり技術に特化した（それが文化・生活に密接に関わるような）運営が行われていること
・人を呼び込むために無理に都会化せず、現状の福井の良さを維持すること
・適度に便利で、適度に田舎である今の環境を変えないこと
・都会のような立派さはなくても、純朴な生活があふれていること
・都会や便利さを追い求めすぎないこと
・福井の人が福井をお薦めできること
・福井に暮らす人も訪れる人も生まれてよかったと思える地域になること
・自然と共存できるサスティナブルな生活が送れること
・大都市圏のような発展は不要で、福井ならでは良さをそのまま残しながらも、経済、社会、環境が持続可能な地域であること
・持続可能な地域社会であること
・歴史文化と住みやすさが共存していること
・自然と共生しつつ、利便性と活気があること
・のどかさと最先端が入り混じる落ち着いた暮らしができること
・技術革新によって、福井のモダン化ではなく、「素敵な田舎づくり」を進めること
・物質面だけでなく、精神面でも幸福度が高い地域であること
・みんなが普通に幸せに暮らせること
・経済の豊かさよりも内面の豊かさを重視し、成長を促す地域であること
・誰もが幸せを実感できること
・県民が「福井に住んでいることが自分を豊かにする」を実感できること
・住みやすく、働きやすい福井県であること
・人口が日本一少なくても、ピカッと光る県であること
・住みよさ日本一を住民が実感できること（当たり前のことが、当たり前でないことへの気づき）
・地域住民や県民が自分を大切に思える、他者を思いやれる社会であること

・未来を見据えてスモールスケールでダウンサイジングしていくこと
・「本物に出会いたかったら福井に行こう」と思われるような県であること

○県民像

・福井県を誇りだと言える県民（子ども）が増えていること（生まれた地という意味合いではなく）
・家族みんなで過ごせること、物がないことも幸せの１つだと実感できること
・地元に誇りを持つ県民が多いこと
・思いやりのある県民があふれていること
・人間性豊かな県民が多いこと

○チャレンジ

・自分たちで何をしたいのか、何ができるのかを考える人を増やす空気感を醸成すること
・若い世代も含めてチャレンジしていく（してもいい）社会を構築すること
・チャレンジできる環境が整っていること
・良いところをそのままに変化していくこと（チャレンジしていくこと）
・県民が自分のやりたいことにチャレンジして活躍できること
・各自の挑戦を後押しできる環境にあること

○産業・技術

・AI や IoT などのベンチャー企業やユニコーンなどが生まれやすい環境を整備し、日本版シリコンバレーとなっていること
・新しいものや価値を生み出していくクリエイティブな地域となっていること
・良質な人材が循環し、高付加価値の産業が創出されていること
・ものづくり産業に先端技術が導入されていること
・掘り起こせば光る企業や産地に磨きをかけて成長させ、世界のモノづくりの聖地を目指すこと
・自然の豊かさや教育水準など、今の良いところはそのまま残しつつ、福井県単独でも経済が成り立つこと。持続可能な社会（経済）が実現されていること
・伝統工芸、技術が地元の人、若い人に認知され、引き継がれ、新たに広がっていくこと
・経済・社会・環境が持続可能な地域であること
・最終商品まで福井で製造できること
・給与水準が上がっていること

○定住・交流

・県外に出た人が戻ってくる、または県外の人と交流できること
・進学して都会に出た子ども達が帰ってくるために、学んだことを活かして働ける場所が揃っていること
・大学の学部を増やす等により、地元で進学して就職すること
・一度福井を離れても、戻ってきて仕事をし、暮らしていけること
・若者が福井の良さに気づいて戻ってきたいと思えること。また、ずっと住み続けたいと思えること
・働く場所が多く、若者が地元に残り支えてくれる環境が整っていること
・若い人にとって魅力的な仕事があること
・若い世代が働きながら家を持て、自分らしく生活できること。また、高齢者も働き続けられること
・北陸新幹線全線開通により、都会への通勤エリアとなり、人口が増え、活気ある県となっていること
・学生が福井の魅力を認識していること
・家族を持った時の生活をイメージできる地域であること
・地域住民が、移住者の受け入れや過疎化の歯止めに対する意識を真に持つこと
・地元の人が本気で地域に新しい人が入ってきてほしいと思うこと
・いろいろな人が来て、凝り固まった人間関係が動いていること
・人口が減っていくため、よそからの人との交流が増えていくこと
・福井と関わる人を増やすこと。旅行から始まり、１週間、数か月と関わる頻度が高くなれば、移住にもつながる。
・県土を楽しみながら守る県民と関係人口が多いこと

○観光

・豊かな文化・資源（歴史・食材など）を活かし、居住満足度が向上し、観光客が増えていること
・県外の人、特に外国人が福井の食や温泉に魅力を感じて、福井に人が集まる訪れること
・インバウンドを含む観光客が増加していること

○共生社会

・様々な生き方を試みて良い、いろんな人がいて良いという意識が醸成されていること
・幸福度日本一だからこそ、他に先んじて多様な質の幸せに寄り添えること。特に女性が感じる不幸せが解消されていること。女性の幸せは、新しい時代を切り拓く旗印・道筋の１つとなる。

・生活は今のように落ちついている一方で、若者と年配者が共生できる社会であること
・すべての世代が笑顔でいられること
・多様な主体（女性、障がい者、LGBT、外国人など）が、それぞれの選択を自由にできること
・互いの人権を当然に尊重しあえること
・多様性を認め合い、誰もが安心して暮らせる社会であること
・県民が多様性（外国人、LGBT 等）を認めていること
・子どもの安全が最優先され、安心して遊べること
・若い人の意見をしっかりと聞くこと
・高齢者が増える中、生活面で不安を抱えることがないこと
・高齢者も含め、車に乗れなくなっても生活できる、社会とつながることができること
・無理せず、ゆるやかに今を満足できること。それが長寿命化社会を助け合って生きる道のように感じる

○家庭、地域

・人口が減る中、「縮小」ではなく「濃縮」した社会を実現していること
・３世代同居や看取りなど、つながりが生き、持続していること
・県民が地域の行事等に積極的に参加する活力を持ち、生活していること
・地域のつながりや支え合いが残り、年代を超えた交流があること
・人口が減少することは止められない現実であるため、一人一人が活躍し、つながり合える社会であること
・自治会など地区の集まりに子育て世代や転入者がなじめる環境をつくり、昔から住んでいる人と新たな移住者が支え合っていけること
・県内の都会と田舎など、県民どうしの交流が増えていること。人が交流し、お互いの良さを分かり合える地域になること

○子育て

・素敵な田舎づくりを通して、子育て県ふくいを確立していること
・子どもたちを中心に据えた行政が進められていること
・子育て世代が、「福井で子育て・教育を」と思えるような県であること
・子ども達が伸び伸びと育ち、生き生きと生活できること
・自然豊かな中で子育てしていること
・地元で結婚、出産し、安心して子育てしていること

○教育

・人材育成、教育のトップ県であること（未来に向けて重要なことは人づくり）
・クリエイティブなことをさせ、考え抜く力を養うこと
・農業体験や食育など、自然の中で生活できるたくましい子を育て、心の豊かさを充実させること
・学校だけに教育を任せず、地域で子供を見守りながら育てていること

○安全・安心

・安全安心を第一に県民一人一人が健康に生活できること
・県民のコミュニケーションの充実により、安全・安心を確保すること
・すべての県民が健康であること
・災害に強い環境であること

○その他

・県民主役をコンセプトだけでなく現実的にアクションとして具現化していくこと

（4）将来像を実現するために必要なこと

○まちづくり

・文化や歴史を活かす、残しておいて活用する。また、新しい文化を生み出し、他の文化に融合
・温故知新の「故」は福井が、「新」は他県が強いことから、新幹線開業の機会を活かして、これらの融合に向けた動きを県民一人一人に意識づけ
・大都市には流行のものが多くあるが、それを真似してしまえば、福井が福井でなくなってしまうため、福井の個性を最大限に活用
・他県にない福井の特性を生かしたまちづくりの推進
・「古き良き」と「新しく快適」を融合し、福井にベストな形に作り上げることができるシステムを創造。そして、そのシステムを生み出す人材を育成
・自然に配慮したまちづくりの推進
・都会では得られない、穏やかな安らげる地域の構築
・都会と競わず、疲れた時に「帰っておいで」と言えるような地域の構築
・都会の真似をせず、むしろ都市との差別化を図る政策を推進
・県民が誇りに思えるものを創造
・変えるべきことは変え、変えなくてもよいことは変えない
・ないものばかりを求めず、自分たちの強みや弱みを知る。既に持っているものや地域資源を認識し、それらを活用
・田舎であり続け、田舎の強みを掘り起こし、活用
・福井にあるものを大切にし、強くアピール
・県民一人一人が福井の営業マンになるくらいの気持ちを持ち、当たり前のことに気づき、福井の良さを発信
・外に目を向けて、良いものを活用
・働く場所、育てる場所、住みやすい場所といった生活基盤の整備を推進
・地域発のまちづくりを進めるため、行政だけでなく、地域・企業が一体となった取組を推進
・行政に要望するばかりでなく、住民が自ら考えて行動して、行政をリードする意識の醸成
・公共交通網の整備を推進

○チャレンジ

・自分のやりたいことにどんどんチャレンジできる環境の整備
・自分がやりたいことを見つけ、それを実現するために努力していくこと。そして、それを達成する姿を子どもに見せていくこと
・若者がやりたいことを実現できる場を創り、一緒にチャレンジできる環境の整備

・若い起業家が新たなチャレンジを行うことに対して、協力すること。特に、嶺南地域においてチャレンジや新しいことができる環境を整備
・若者への投資の増加
・生活スタイルや仕事における若者の選択肢の増加
・同居や共働きを強制されない社会の実現
・目標を持って挑戦・実行できる社会の構築
・住民自身が周囲の環境の良さに気づく。住民が生活環境の向上に向けて実施することに対して行政が支援
・福井に「なにもない」という人がいるが、福井の価値を知らないだけ。価値を知り、「だからここに住んでいる」と自信を持って言える県民の増加
・福井のことを知らない県民が多い。福井の良さを県民に啓発
・自然の大切さを一人一人が理解し、暮らしやすさを向上させる政策を実施
・現在、高齢者に対する政策のほうが多いため、政治が若者の意見をより多く取り入れるよう、若い世代に選挙の大切さを啓発

○産業・技術

・先端技術を持ったベンチャー企業の誘致
・福井に、自動運転・ドローン・遠隔医療など最先端技術の実験場を整備
・５Ｇなどの情報インフラへの迅速な対応
・しっかりとした給料で福利厚生や待遇の良い職場が少ない。都会から帰ってくる若者に対し、都会と同じくらいの給料を出せるような会社を育成
・サテライトオフィスや地方の拠点として首都圏の企業へのアピールを強化
・利益ある地域産業を増やすため、やる気や熱意のある企業・産業に対するバックアップを強化
・子育てしながらできるビジネスチャンスの創出
・より良い人材を採用するため、娯楽施設や商業施設が少なく、不便な場所というイメージを払しょくする施策を推進
・繊維、眼鏡などに代わる新たな主要産業を育成

○定住・交流

・子育て・教育環境の良さに関するアピールを強化
・就職や起業の候補地として福井が選ばれるよう、県外の学生に福井をアピール
・都市部に比べて給与は低いものの、生活に必要な費用を差し引けば、自分で使えるお金は福井の方が多いなど、ゆとりある生活が送れることをアピール
・田舎だからできること、田舎でもできることを発信
・地域資源の価値を発信していくこと。デザインを活かした仕事のすばらしさを実現し、伝えていく。

・食や自然など、生活するのに素晴らしい環境であることに県民自身が気づく。
・大人が福井の誇りを作り、それを子どもに伝えて、福井で生まれた子ども達が「福井を選ぶ」ような流れを作る（将来への種まき）
・大人が福井への愛着、家族の良さについて子ども達に見本を見せる（親が福井に愛着を持っていなければ、子どもは福井に住み続けない）
・親が子に地元の良さを伝える家庭教育を実施
・小中学生の時期に地元の産業に触れる機会やキャリア教育を拡大
・地元の歴史文化・伝統工芸・企業の技術を発掘し、子ども達に地域に対する自信・誇り・愛着を芽生えさえる教育を推進
・子どものときの自然体験が体に染み込めば、いつかは福井に帰ってくると思われることから、自然を残し、自然の豊かさを肌で感じられる地域づくりを推進
・子どもたちに福井の良さを伝え、地元にいたいと思わせる教育を推進
・県外に出た若者が地元に帰ってきたい、自分たちも地元で何かしたいと思えるような地域の魅力づくり
・友達とのつながりや地元の良さが感じられるなど、帰ってくることにメリットを感じられる地域づくり
・大企業に負けない福井の中小企業の学生へのPRを強化
・大学を卒業した子ども達のために多様な就職先を確保
・特に若年層の収入の拡大
・特に農林水産業に携わる若者が食べていける仕組みを構築
・空き家は多くあるが借りられないなどといったことがある。移住者のための住居の安定性を確保する施策を実施
・県外の人々に住みたい場所として福井を提案
・福井と関わり続けたいという人と県民をつなぐこと
・関係人口をつくる。

○観光

・福井は地域の魅力をうまく活用できていないと言われるが、掘り起こせば輝くものがある。唯一無二性を見つけて上手に発信
・福井の魅力や強みの発信を強化
・観光客を増やすため、自然や文化の良さをアピール
・近畿圏の人々の保養所を目指し、自然・文化・歴史を活用
・ターゲットを絞り込んでインバウンドを強化
・文化交流イベントや海外文化と融合した商店などへの支援

○共生社会

・男女共同参画をさらに進め、女性が活動しやすい街づくりを推進

・特に女性の幸せにこだわり、女性が感じる「不幸せ」の質を一つ一つ解消していくような施策の推進、雰囲気の醸成
・お互いを思いやる心の広い人を育てる教育
・人間どうしのつながりの大切さ、お互いの個性を認め合う教育
・「～べき」「～らしさ」を求めすぎない教育
・近所や地域とのつながりを強化し、市町と住民が助けあえる体制を構築
・仕事を定年となった後、不安を抱えることのないような施策を実施
・高齢者が安心して快適に生活し、働き、余生を送ることのできる環境を構築
・高齢者が安心して暮らせるまちを目指し、一人暮らし高齢者へのボランティアによる支援などを拡充
・SDGｓの推進

○家庭、地域

・住民自身によるまちづくりなどへの積極的な参画
・心にゆとりを持って地域活動を行うことのできる仕組みづくり
・やりがいを見つけることのできる地域づくり
・若者が地域に愛着を持って活動できるような場や雰囲気づくり
・地域とのつながりを大切にし、地域貢献活動を若いうちから実行し、福井とともに成長していくという県民意識を醸成

○子育て

・将来に向けて重要なことは人材づくりであることから、子育て・教育のトップ県を目指した政策の実施
・収入の格差によって教育や食に差がでないよう、年齢・性別・国籍を超えて子どもや働く女性、ひとり親世帯の支援を実施
・父親が子育てに参加できるよう、働き方改革（定時退社）を推進
・３世代同居や近居でない共働き家庭が利用できるサポートの充実

○教育

・伸び伸びとチャレンジ精神旺盛に成長する子どもたちの育成
・チャレンジ精神と郷土愛を育む教育の推進
・人口流出を恐れず、全国や世界で活躍できる子どもやリーダーの育成
・起業家を増やすための教育の推進
・１人の人間がリーダーにもサポーターにもなれるような教育の推進
・地域のことを学ぶ総合学習の強化（今の２０～３０代は、地元が好きな人の割合が昔より増えているように感じる）

○安全・安心

・人口減少と長寿命化でトップランナーの福井県だからこそできる医療や介護の施策を推進

・地域や行政の存在感が感じられる安心感の醸成

○その他

・新しい時代の行政の役割は県民に舞台を提供していくこと。その舞台の１つとして、福井城址エリアがある。この場所を将来に向けて全員参加型で計画・決定・設計・運営していくようなムーブメントを仕掛ける。

3　市町別意見交換会

福井坂井地域

○福井市

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・人が優しく、裏表がない。最初はカベを感じることもあるが、仲良くなると優しい。人間関係が作りやすい。
・福井の幸せは家族力にある。
・駅前、中央公園、足羽川までみれば、中心市街地として、観光も自然もあって、観光として福井の生活も楽しめる。

（2）福井県の改善すべきところ

・福井の幸せが女性の頑張りに負っており、生きづらさにつながっている。
・なぜ女性が管理職にならないのか。管理職にならない女性を見ている県内の女子学生は、県内大学に進学しない、県内企業に就職しない。
・外部の人間をよそ者として見て、新しい人が入りにくい雰囲気がある。
・県民が福井に何もないと考えている。県やまちの良いところを知らない。中央公園で、あまりイベントが開かれていない。
・公共施設がバラバラに置かれ、分かりにくいまちづくりになっている。
・行政からのトップダウンで県民が盛り上がっていないことが多い。

（3）望ましい将来像

・女性が幸せな社会であること
・歴史的に偉人を輩出してきた経緯もある。スタートアップの拠点、人材育成都市となり、福井生まれがブランドになること
・福井が好きな親に教育され、その子が教育者に、という好循環が生まれる
・県民がボトムアップで盛り上がるまちになること
・中山間地域など、あらゆる地域を取り残さない社会になること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・女性が決定力を持つ。
・働きやすい労働時間管理、人材育成により、女性を後押ししていく。
・女性に対する意識を変えていく。
・女性の幸せを考えられるような視点での家庭教育を行う。
・子どもに福井の魅力を伝えていく。季節感のある子育てにより、心に原風景を持つ強い心を持つ子育てをしていく。地元への愛着心を高めていく。
・大きな企業が少ないので、フリー、独立など、仕事を作っていける教育、出る杭を伸ばす人材を育成する。
・若者がUターンして働ける場所を増やす。起業を支援する環境を整える。
・住民がまちづくりに参加、考え決めていく。ボトムアップで盛り上がる。

○あわら市

（1）福井県の良いところ、伸ばしたいところ

・家族やコミュニティーなど、良い人柄が育つ基盤がある。
・県民に優しさ、誠実さ、忍耐力があるからこそ、充実した教育や信頼性のあるものづくりなどにつながっている。
・山、川、海、丘陵地、お湯など地域資源が豊富である。
・待機児童が少なく祖父母の手を借りることで子育てしながら働きやすい。
・食材が豊富、治安が良い、教育水準が高く、幸福度No1

（2）福井県の改善すべきところ

・石川と比較して、国道8号線以外の道路の整備が遅れている。
・若者が地元にとどまるような環境（企業など）が整っていない。
・表現することやアクションにつなげることが苦手
・最初はよそ者を受け入れにくい。
・PRが下手で、観光地の周知がされていない。
・福井駅以外の駅周辺は活気があまりない。

（3）望ましい将来像

・女性が幸福を実感する社会になること
・温泉や自然を活かして、観光客や住民で賑わうこと
・若者がチャレンジできること
・子どもと親が一緒に長く過ごせる社会になること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・高齢社会は高齢者活用時代と読み替えるべき。元気な高齢者は働くなど、社会参画してもらい、生きがいを持ちつつ健康寿命を延ばしていく。
・若者のチャレンジが報われるように行政が支援していく。
・中学生から30代くらいまでの若者会議を開催、新しいアイデアを生かす。
・大人が地域資源を大事にしていることを表現し、子どもに見せる。
・何を大切に生きていくか共通のイメージを共有する。
・仕事だけではなく、介護や家事で頑張っている女性を評価する。
・子どもに農業に対して良いイメージを持たせる。
・Uターン者に、専用マンションや空き家、所得が安定した仕事を提供する。
・共働き世帯が多いため、保育所の預かり時間を今よりも延長する。
・企業の後継者を広く募集し、事業継承の支援をしていく。
・温泉や水、自然を活かしたフルマラソンを開催する。
・福井の歴史や文化を伝える教育を子どもたちに行っていく。
・子どもたちが地域のイベントや祭りに触れる機会を増やしていく。

○坂井市

（１）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・人々の地域への愛着が強く、コミュニティーがしっかりしている。
・３世代同居率が高い。子育てしやすい環境
・勤勉な県民性。経済的に余裕がある。
・教育力が高く、人々の教育への関心も高い。
・観光資源が多く、食材がおいしい。
・安心安全なまちである。

（２）福井県の改善すべきところ

・情報発信力が弱く、魅力が伝わっていない。福井県の認知度が低い。
・観光客が来ても消費に結びついていない。
・公共交通機関が不便
・人見知りやプライドが高いこともあり、外部の人を受け入れにくい。
・若者のまちへのコミットメントが弱い。
・ライバルや刺激が少なく、成長に限界がある。
・県内の大学に学びたい学部・学科が少ない。
・県立大学の海洋生物資源学部の学生は、県内に就職口がない。

（３）望ましい将来像

・時代に合わせたコンパクトなまちづくりを進めること
・田園地帯や海など、今の風景が残っていること
・若者が誇りをもって、地域活動を行うこと
・交通インフラが充実。高齢者が移動しやすく住みやすいまちであること
・他県から来た人を受け入れる県民性となっていること
・多様な働く場があり、女性がイキイキと働けること
・一人ひとりが幸福を実感できること
・障がい者や高齢者も地域で認め合い助け合うこと

（４）将来像を実現するために必要なこと

・一人ひとりが坂井市の良いところを認知し、広告塔として情報発信する。
・スポーツで盛り上げて、福井の知名度をアップさせる。
・行政が失敗した人にも寛容になり、チャレンジする人には支援していく。
・サテライトオフィスの誘致、ベンチャー企業に支援する。
・農業発展に向けて、大規模化、スマート農業、パイプラインを活用する。
・アーティストインレジデンスや観光で長期滞在モデルをつくる。
・地元事業所が地域資源を活かして体験メニューを提供する。
・まちづくりに参加しやすい雰囲気をつくり、人材の発掘、育成を行う。

○永平寺町

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・自然が豊か、水がきれい。自然災害の影響を受けにくい。
・衣食住の質が高い。高いビルがない。
・高齢者と女性が元気である。
・禅文化がある。永平寺を擁しており、ブランド力・知名度が高い。
・インターチェンジがあり、福井市にも近く、立地条件が良い。
・医療体制が整っている。治安が良い。

（2）福井県の改善すべきところ

・子どもが減っている。
・若者が働きたい職場や娯楽が少なく、定着しない。
・企業が進出してこない。企業の跡継ぎが不足している。
・将来をデザインする力が不足している。
・自らを客観的に見る力に欠け、幸福度に気づいていない。
・交流人口増加に向けた取り組みが弱い。
・宿泊施設が少なく観光客が滞留しない。VIP に対応できる宿泊施設がない。
・独居老人、働く高齢者への対応が弱い。

（3）望ましい将来像

・自然と共生した豊かなライフスタイルが実現していること
・インターチェンジを活用し若者に魅力的な企業や工業団地が増えること。物流の拠点となっていること
・最先端技術を活用していること
・住民が共生し、共存していること。人、世代が循環していること
・大学生と地域の交流が活性化していること
・先端医療が導入されていること
・高齢者が生き生きと安心して暮らせること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・デマンド交通、自動走行を含む二次交通を充実させる。
・福井の良い点を再確認し活用しながら新たなことにチャレンジしていく。
・敦賀港、福井港を貿易拠点として確立する。
・インターチェンジ付近に工業団地、ショッピングモールを誘致する
・災害が少ないことをアピールして企業誘致を進める（BCP の観点）
・町内の祭りなどに大学生が参加する体制を構築する。
・広域観光圏の再構築など、広域の誘客体制を強化する
・外国人の子どもに対する教育体制を確立する。

奥越地域

○大野市

（１）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・自然が豊かであり、まちと調和している。
・食文化が豊かである。
・人が温かく、勤勉である。
・子育て支援が手厚い。
・教育環境が素晴らしい。
・他の地域と比較して、災害が少ない。

（２）福井県の改善すべきところ

・男女の役割の意識が強すぎる。
・若者が働きたい仕事、魅力的な仕事が少ない。
・地域交通網（鉄道・バス等）が脆弱。バスが減便されるなど非常に不便
・インバウンドを受け入れる宿泊施設が少ない。
・山林が荒廃している。

（３）望ましい将来像

・“子育てなら福井”“老後は福井”など、キャッチコピーで語れるまちづくりが進んでいること
・大野市内の周遊や福井市と往来するための地域交通網が充実していること
・“若者が食べていける農業”を定着させ、自給自足できる地域であること
・住む場所が自由に選択でき、自宅で仕事ができること
・福井と都市部で二重生活が出来ること
・将来の不安が無く、誰もが幸福を実感できること
・女性が生きやすいこと
・２人目、３人目を産み育てやすいこと
・災害に強いまちづくりが進んでいること

（４）将来像を実現するために必要なこと

・若い人の斬新な発想、経験のある方の知恵を施策に反映する。
・収入を高めるビジネスを生むアイデアを増やしていく。
・盆地の特性を活かした農業によるブランド力を向上させる。
・子どもたちが自然に触れられる場所をつくる。
・市内に若者が安心して暮らせる住宅を整備する。
・教育、人材に先行投資する。
・中部縦貫自動車道を隣県との交流拡大に活用する。
・車に頼らない観光メニューをつくる。
・風光明媚な越美北線を活用した観光列車を導入する。

○勝山市

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・自然や食が豊か
・恐竜、左義長まつりなど観光資源が多い。
・人のつながりが強い。人間性が良い。
・混雑が少なく、車が使いやすい。
・教育環境が優れている。勝山はバトミントンが強い。
・英語教育が充実している。
・子育て・保育環境も優れている。

（2）福井県の改善すべきところ

・車社会で交通が不便。自転車も利用しにくい。
・人口減少が進み、若者が少ない。スポーツや産業への影響が出ている。
・仕事が少ない。遊ぶ場所がない。
・市民が魅力に気付いていない。発信力が弱い。
・つながりが強い反面、人の目がついてまわる。
・考え方に多様性がない。

（3）望ましい将来像

・自然、レジャーなど「体験型」を伸ばすまちであること
・「恐竜」を前面に押しだした魅力的なまちであること
・５Ｇが整備され自動運転で移動する社会、高齢者が安心できる交通体系が整備されていること
・どこよりも安全安心な食を提供できること
・地域ぐるみで子育てをする社会であること
・コンパクトシティになること。空き家も活用し、住みやすいまちであること
・シルバー産業で賑わう、高齢者が活躍する社会になること
・子どもたちが地域を誇れる社会になること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・豊かな自然の保全、体験メニューを発掘する。
・恐竜など、他に負けない魅力をみんなでさらに良くしていく。
・恐竜博物館の横に遊園地やホテルをつくる。
・地域の学校を維持する。
・ベンチャーを支援する。
・各地区の特性を生かしたコンパクトな地域づくりを推進する。
・外国人と一緒に地域を盛り上げる。
・多様性を認め、出る杭をうたない。チャレンジする人を認める。

丹南地域

○鯖江市

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・食や自然の豊かさ
・福井への愛着が高い若者が増えている。
・悪いところがないことが幸福度の高さにつながっている。
・ふるさと教育の効果でUターンしたいと思う生徒が増えている。
・チタンの微細加工技術は世界一

（2）福井県の改善すべきところ

・女性活躍の裏で女性が犠牲になっている。規範意識に関して柔軟性が必要
・女性が勤勉で働く意欲が高い反面、キャリア意識が低い。
・ボランティアの参加者が減少。特に女性が忙しい。
・障がい者、ＬＧＢＴ、外国人などを受け入れる多様性に欠ける。
・近くに預けられる保育所が不足している。子どもが遊べる場所がない。
・難関大への進学を評価する意識。福井の生活の幸せを伝える努力が必要
・後継者の高齢化と後継者不足が深刻。製造業の起業が少ない。
・悪いところがない反面とがった魅力がなく、人を惹きつける魅力がない。

（3）望ましい将来像

・文化や歴史などを大切にし、都市を真似しない“福井らしい”まちづくり
・デメリットを伴っても、福井にしかない尖った魅力づくりを進めること
・あるものを大事にすること。昔ながらの自然を残すこと
・出産後、すぐ働き始められる。女性が子育てしながら自己実現できること
・農業を楽しいものに変えていくこと
・多様性を尊重する社会にしていくこと

（4）将来像を実現するために必要なこと

・福井弁を大事にするなど、福井の歴史や文化を守っていく。
・「子育てと仕事をハッピーに」をスローガンに、子どもを持つ女性が短時間でもスキルアップできる働き方を進めること
・県外進学を止めるのではなく、Ｕターン就職する意識付けを進める。
・ものづくり産業の高い技術力はデザインとの相性が良いことから、優秀なデザイナーを活かすデザイン政策を強化する。
・技術力やビジョンをもつ中小企業に対し、ブランディングを強化する。
・第三者承継や設備投資を支援し、製造業の廃業を食い止める。
・生産性の高い産業をつくる。可処分所得の高い仕事をつくる。
・農家の“売る力”を高めるためのサポートを強化する。
・数字だけに捉われない将来像を示す。

○越前市

（１）福井県の良いところ、伸ばしたいところ

・日本の中心に位置し、高速交通の開通を控えてポテンシャルが高い。
・日本の歴史・文化を支えてきた伝統工芸、技術の高さ
・家族や地域の連帯感が強い。
・自然や食の豊かさ、教育力の高さ、まじめな人間性

（２）福井県の改善すべきところ

・中高年にとって住みやすいが、若者にとっては楽しみに欠ける。
・若者がワクワクするプロスポーツの観戦機会、大規模商業施設が乏しい。
・後継者や担い手が不足している。若者の農業への関心、農業所得が低い。
・二次交通が弱い。買い物難民や医療難民が存在している。
・広域観光など、市町の連携関係が弱い。

（３）望ましい将来像

・文化的水準が高く、自然豊かな、都会と田舎が融合した地域になること
・文化や伝統が息づく自然豊かなまちを次世代に引き継いでいくこと
・夢をもった若者が福井でグローバルな仕事をしながら、質の高い生活を楽しめること
・新幹線開通等により、関西から福井に通勤することが当たり前になること
・「夢と希望のある農業政策」。地域ならではの農産物により活性化すること
・観光によって、丹南地域の伝統産業等のものづくり産業が活性化すること
・人口減少下でも成り立っていける社会。地域産業を維持すること
・意欲ある高齢者の活躍促進。６５歳を高齢者と考えない社会になること

（４）将来像を実現するために必要なこと

・スポーツ大会や合宿等を誘致し、スポーツを通じた交流を拡大する。
・企業が魅力を高め、人や投資を呼び込むことにより、地域に貢献していく。
・産業のためのインフラづくり。特に道路整備を進める。
・転勤者や家族が孤立しない、息抜きできる場所をつくる。
・「日本晴」の生産・販路拡大を進め、日本一の生産地にしていく。
・二次交通として自動運転を全国トップレベルで導入していく。
・多文化共生社会に向けた外国人の受入れ環境の整備
・伝統工芸や農業、先端技術などを発信するイベントを誘致する。
・若者が楽しめるショッピングセンターが必要
・産業だけでなく、商業、観光、農業など、いろんな分野に効果が期待される技術革新を強化する。南越駅（仮称）周辺にプロスポーツのスタジアム、大規模商業施設、スーパーシティを実現する。

○池田町

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・田楽能舞などの歴史・文化やおいしい食、豊かな自然がある。
・幸福度や子どもの学力・体力が高い。
・思いやりがあり、人が温かい。
・池田町に昔からある共働き、高齢まで働くスタイル

（2）福井県の改善すべきところ

・アクセスが不便、車がないと困る。
・福井県の印象が薄い、良さが知られていない。
・鳥獣害の被害に困っている。
・コミュニティが狭い、町外との関わりが薄い。

（3）望ましい将来像

・合併せずに残り続けること
・きれいな水が残り、福井県中でおいしいお米がとれること
・都会の真似をし、利便性を求めるのではなく、地方の文化・風習・生活が価値あるものとして残されているまちを実現すること
・域外との交流・連携が盛んなまちになること
・田園風景が残っていること
・子どもや高齢者が社会の一員であり、皆で地域を支える社会であること
・当たり前の福井の良さを県民が認識していること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・空き家対策を進めるなど、環境・景観を守る。
・親・老人を大切にするなど、宗教的な部分も含めた教育を行う。
・池田町を学びの場として成長させる。池田町で都会の人たちが自分たちの生活を振り返ることでその問題に気付き、池田町を助けるようになるような関係人口を創っていく。
・特色ある地域づくりを進め、観光以上、移住未満の交流人口を増やす。
・子どもがいなくなると祭りなど住民の楽しみがなくなる。集落機能を維持していくことが必要
・どろ遊びや川遊びで都会から人を呼び込む。
・子どもや高齢者にもっと地域活動に参加してもらう。
・福井の良さに気付き、PRできる人を増やす。自分たちのまちに対してネガティブなことは言わない。
・しがらみを強制せず、つながり、信頼を大切にしていく。

○越前町

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・自然が豊か
・食べ物が美味しい。
・住みやすい。
・人のつながりが強い。人とつながりやすい。
・人が優しい。
・子育て環境が良い。

（2）福井県の改善すべきところ

・就職先が少ない。若者向けの雇用が少ない。
・職人の賃金が低い。
・交通が不便
・遊ぶところが少ない。
・病院が近くに無い。

（3）望ましい将来像

・アピール不足を克服していること
・後継者不足が克服されていること
・若者に魅力的な仕事が多いまちになること
・地域コミュニティが維持されていること
・交通の利便性が向上していること
・外から人が多く訪れるまち

（4）将来像を実現するために必要なこと

・自然の豊かさや食の豊かさをさらに伸ばす。
・自然を活かしたレジャーを売りにする。
・特産品を利用したご当地グルメを開発する。
・地元のまつりに参加する。
・外から人を呼ぶ仕掛けをつくる（野外フェスなど）
・高校生に地域を知る機会を提供する。（地元食材を活用した食のイベント開催など）
・高校生がもっと町のことを考えるよう、高校生たちが考える将来像の案を一つでも実行する。

○南越前町

（１）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・自然が豊かで、食が豊富である。
・人と人との結びつきが強い。
・田畑があるため、高齢者が元気で、勤勉である。
・幸福度日本一である。
・子育てがしやすい。
・経済的に豊かである。
・高校生の就職が安定している。

（２）福井県の改善すべきところ

・若者が流出し、高齢者の一人暮らしが増えている。
・地域コミュニティが弱くなっており、空き家が増加している。
・仕事が少なく、チャレンジの機会も少ない。
・ＰＲが下手である。
・交通が不便。買い物が不便

（３）望ましい将来像

・車社会から転換し、地域交通が充実して外出しやすいこと
・一次産業で儲けられる地域となっていること
・医療や買い物をＩＣＴで便利で安心にできること

（４）将来像を実現するために必要なこと

・自然や食の豊かさを守る。
・農林漁業者を確保する。
・農林漁業関係の大学研究室を誘致する。
・親子の絆を深め、支えあう。
・歴史・伝統のふるさと教育を充実する。
・結婚施策をもっと若者へ広げる。
・ＡＩの技術活用や人材育成を進める。
・ＩＴ活用により在宅勤務を進める。
・６次産業化などにより所得を増やす。
・地産地消を拡大させる。
・体験型観光を充実させる。
・アウトレットを誘致する。
・ＳＬを運行する。

嶺南地域

○敦賀市

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・子育て環境が充実している。
・全国トップレベルの学力・体力など、良質な人材を育て続けている。
・自然環境が豊かで住みやすい。
・敦賀は交通の便が良い。
・人道の港という歴史、誇らしいものがある。

（2）福井県の改善すべきところ

・都会に対するあこがれがあり、福井に自信がない。
・奥ゆかしいが、リスクを取るのに臆病なところがある。
・幸福度日本一、住みやすさ上位の実感がなく、移住につながらない。
・嶺北と嶺南で教育をはじめとする格差がある。
・原子力にプラスする産業軸が不足、原子力のまちとしての先行きが不透明
・新幹線開業に向けて、県として関西との結びつきがまだ弱い。

（3）望ましい将来像

・医療・介護・子育て支援が充実していること
・生活面の安全安心の土台がしっかりしていること
・Uターンなど良質な人材が県内に留まり、新しい産業を興していくこと
・情報インフラの先進地となり、起業環境日本一になること
・新幹線・リニア開業を見据えた関西・中京との連携が進んでいること
・多くの方が住むベッドタウンとなること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・福井のアイデンティティを持たせる教育をしていく。県でいえば、恐竜とかエネルギーとか、県民が自信を持てるものがあるといい。
・地元に愛着を持つ子育てをしていく。例えば、人道の港は誇らしい。
・福祉環境、子育て環境を充実させる。
・地域の発展のため、近所付き合い、コミュニティーを維持する。
・働く環境、起業環境などを整え、住民満足度を向上させていく。
・若者の定着のため、労働環境の是正、都市圏並みの給与水準にしていく。
・新幹線に向けて、松原、西福寺、水島など観光資源の再開発を進める。
・ターゲットを絞り込み、歴史も活かしたまちづくり・文化交流を進める。
・インバウンドの視点を取り入れて広い交流を考えていく。
・嶺南嶺北の格差があると思う。格差解消に向けて嶺南振興局を強化する。
・情報インフラ進展のスピードに対し、自治体が素早く対応していく。
・敦賀に住もうという人を増やすため、通勤・通学の補助をする。

○美浜町

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・自然環境に優れ文化財が非常に多い。
・人口や面積がコンパクトであり、目が行き届きやすく高齢化などに対しきめ細かな対応が可能。
・学力が全国上位であること。学力は人づくりの基本であり今後もぜひ伸ばしていってほしい。

（2）福井県の改善すべきところ

・共助の精神が薄れてきて、地区の役員等のなり手が不足してきている。
・祭りなどの伝統行事は若者にとっては負担感が大きい。
・県外に進学した学生が働ける企業がないため、福井に帰ってこない。
・圃場整備された田んぼなどで耕作放棄地が散見される。
・交通が不便であり、特に高齢者の足の確保が課題
・「福井県」を知らない人があまりに多い。
・人口減少に伴い、空き家が増えることが大きな問題

（3）望ましい将来像

・新幹線や道路の整備により交通体系は発達したが、観光に対してのインパクトは小さい。今後も自然の豊かさなどを生かしていくこと
・高齢者が交流し、生きがいを持てる社会になること
・必要以上に発達しすぎたため、今後は現状を維持していくこと
・若者にとって魅力ある IT 企業などを誘致すること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・子育て負担の軽減、活発な地域活動促進のため、働き方改革を推進する。
・遠隔地でも在宅勤務できるような企業の誘致を進める。
・小さな企業でも IT 企業などについては積極的に支援する。
・高齢者でもビジネスを立ち上げるなど、所得を得て税金を納めていく。
・耕作放棄地などに対応するため、外国人労働者を活用する。
・週末移住などにより農業や漁業に従事したい県外者を呼び込む。
・誠実で勤勉な県民性、自然の豊かさや公共施設の充実を融合させる。
・定住にこだわるのではなく、二地域居住など様々な手法を検討する。
・避難道路としても観光でも活用する南北に抜ける道路を整備する。
・地域愛や地元定着率を高めるため、女性も参加しながら住民が話し合い、自分たちで地域のあり方を考えていく。
・幸福度を高めていくため、集落同士が助け合いながら生活していく。
・高齢者が老後を豊かに過ごせるゴルフ場等を備えた施設を整備する。

○若狭町

（１）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・自然がきれいで、災害が少ない。観光資源が豊富、食が充実している。
・人と地域のつながりがあり、助け合いの文化が育まれている。
・小さい県ならではのまとまりがある。
・小中学校の学力がトップクラスであり、大人も勤勉で人柄がいい。
・三世代同居や共働き率が高く、所得が十分にあり生活が豊か
・京阪神や中京に近く、地の利がある。
・長寿であり、出生率が高い。

（２）福井県の改善すべきところ

・住民が行政に頼りすぎていて自立性がない。リーダーが不足している。
・閉鎖的な考え方、遠慮深い人間性である。
・就職する場が少なく、若者が高校卒業後県外に出て行ってしまう。
・関西・中京への人の流出が容易
・ＰＲが下手で知名度が低く、特徴がない。

（３）望ましい将来像

・小さい県としてピカッと光る福井県になること
・「生活の場」としてのんびり過ごせる優位性を生かすこと
・伝統文化を守り、次世代に引き継いでいること
・公共交通と二次交通がマッチングし、高齢者も子供も安心して住めること
・失敗を恐れずチャレンジできること
・通勤通学圏となる京都大阪から人の流れができていること
・食、子育て等の面で安心して生きていけること

（４）将来像を実現するために必要なこと

・地域資源を活用し、住み続けてもらう魅力ある地域づくりを進める。
・都市を目指すのではなく田舎らしさを生かしたまちづくりを進める。
・たたき網漁などの伝統文化をそのまま残す、福井らしさを大事にする。
・新幹線に合わせ二次交通を充実。自転車を観光などに活用していく。
・都市部とのつながりを強くする。
・失敗してもチャレンジできる、持続可能なシステムテムを構築する。
・人材育成、特に地元で頑張る若者を支援する。
・７０歳まで元気に働ける環境をつくる。高齢者自身の努力も必要
・女性の意見を積極的に採用するための環境をつくる。
・地域への関心を強くし「笑顔、力、知恵、金」できるものは遠慮せず出す。
・優秀な人材が福井県に戻り、貢献してもらえるような仕組みを作る。

○小浜市

（１）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・豊かな自然環境が残っている（特に夕日がきれい）。水や食が美味しい。
・地域にまとまりがあり、人が優しい。知人が多く安心感がある。
・スーパーサイエンススクールの若狭高校や食育など、教育環境が良い。
・職場と住居が近く、住みやすい。
・歴史や文化が多様である。
・京阪神に近く、都市部へアクセスしやすい。

（２）福井県の改善すべきところ

・奥ゆかしく、消極的
・役割が一人に集中しがちである。
・大学、企業や働く場所が少ない。転出した若い人たちが、戻りにくい。
・観光資源が豊富で魅力はあるが、PRが下手でそれを活かせていない。
・にぎわいや若者が少ない。若い人の遊ぶ場所が少ない。
・公共交通機関が不便である。

（３）望ましい将来像

・自然や食文化を大切に残していくこと
・「ほんもの」の地域資源が守られ、永遠に伝えられること
・先端技術を柔軟に取り込み、楽しくて心豊かに暮らせること
・「海のある京都」と呼ばれることもあるが、小浜として誇りを持つこと
・交通機関が充実していること。観光産業が発展していること
・活気があふれるまちであること。若い女性が来ること
・都会に行かなくても仕事ができる、後継者が残りやすい地域であること
・子育てしやすい、高齢者が住みたいと思うまちであること
・世界トップの子育て・教育・医療環境があること

（４）将来像を実現するために必要なこと

・「鯖」や「箸」、「お水送り」を強調・特化してPRしていく。
・地域ぐるみで農業や水産業を守っていく。
・高速交通網を早期に整備。小浜線の快速電車化と定時制運行を進める。
・IR（温泉やカジノなど）を誘致する。
・5G、IoT等を活用して、新産業の創出やテレワークなどを増やしていく。
・海辺に大規模な病院を建設し、遠隔医療の拠点とする。
・定住、移住タウン計画を推進し、移住・定住を拡大させる。
・県内に住みつつ県外の大学に通えるように、定期代を補助する。
・産業団地を確保して、企業を誘致する。小規模な企業や大学を誘致する。

○おおい町

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・自然環境が良い。海・山が近い。
・食べ物がおいしく、住みやすい。
・人とのつながり、多世代間の交流が深く、ホッとする。
・“ありがとうの文化”がある。もっと広めたい。
・学校教育トップである。広くPRしていきたい

（2）福井県の改善すべきところ

・幸福度や福井の良さを実感できていない。
・人のつながりや知人の多さが排他的・閉鎖的な価値観につながりがち。
・未婚率が高い。
・多様な人やものを受け入れる教育が不十分である。
・放置された森林が多い。杉の代わりに林業の形態の転換が必要。
・全国的に知名度が低い。
・会議やイベントが嶺北に偏っている。嶺南開催を充実すべき

（3）望ましい将来像

・東京化されず、“洗練された田舎”、福井らしさを持っていること
・都会にはない良さ（ゆったりとした生活・時間）が残っていること
・価値観を転換し、住民が福井にプライドを持っていること
・文化イベント等を通して人の交流が多いこと
・小規模事業者が継続的に成長できること
・関西・中部のベッドタウンとなっていること
・日本海側独自のルートを使って海外から多くの人が訪れていること
・若い時から健康意識が高く、高齢になっても安心して過ごせること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・誰もが魅力を感じる地域を目指す。「楽しい、美しい、美味しい」の3点をさらに高め、一人ひとりがおもてなしの心を持って活動する。
・多様な人が関わり、“田舎力アップ”を図っていく。
・自然、教育、文化財等をもっと全国的にPRする。
・伝統を今後も継承していく。
・若手がやりたいことを尊重していく。
・交通アクセスが向上する中で、都心部の人に選ばれるまちを目指す。
・森林資源など豊かな自然を有効に活用してくれる人を県内外から呼び込み、自然環境を維持する。
・農業体験など体験観光を進める。

○高浜町

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・自然が豊か。普段食べているものが当たり前に美味しい。
・住みやすく、幸福度も高い。地域（住民）の関係性が良好
・勤勉でよく働く県民性である。
・多世代同居が要因（祖父母にも褒められる）となり、学力トップ3
・京都など有名な観光地に近い。町のPRに活かせる。
・産業、財政が比較的豊か。原子力が一つの要因。

（2）福井県の改善すべきところ

・未婚者が増えている。
・後継者不足が深刻である。業者同士の支えあいには限界がある。
・原発が無くなることにより、人材が余ることがないか不安がある。
・人口減少により米消費が減少し、農地の荒廃が進んでいる。
・車を持っていないと生活が困難である。交通の便を改善する必要がある。
・新幹線開通により小浜線が廃線とならないか不安である。
・嶺南・嶺北に地域格差がある。嶺南は30年の遅れがある。

（3）望ましい将来像

・災害に強いまち、自立するまちを形成し、県外にアピールしていること
・子供が安心して将来も暮らしていける、住みたいと思える社会であること
・地元の魅力を知っている子供がU・Iターンし、新たな生活ができること
・関係人口・交流人口の増加により豊かな地域となっていること
・美味しい地元食材を県内どこでも提供できるような環境が整っていること
・安心して子育てができる社会であること
・多様性を認め合い、福祉が充実していること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・自然・海など高浜らしさを大事にし、将来に向けて維持する。
・県民が誇りを持てるモノ・コトを作っていく。
・ゴルフカートを住民の移動に活用するなど、交通体系を見直す。
・既存路線の維持や生活道路の整備等、アクセス面での対策を進める。
・企業を誘致して若者に来てもらい、地域の担い手をつくる。
・ポスト原発を見据え、近畿圏から人が来てもらえるように他県連携、差別化、嶺南に重点を置いた施策を推進する。
・福井・高浜でしか体験できないものを提供する。
・原子力工学を学ぶ教育施設の整備や学者を誘致する。
・原発交付金の嶺南への活用を拡大し、嶺南に力を入れていく。

4　世代別意見交換会における主な意見

○学生グループ

テーマ：学び×地域で発想する未来
「夢にチャレンジできる福井」

・福井県の企業と仕事を知る。福井県には良い企業がたくさんあるが、それを知らないため、キッザニアの高校生版を作り、インターンシップが気軽にできるようにする。大企業を人ごと福井に誘致し、最新情報が福井で容易に手に入るようにする。

・たくさんの人が集まり活性化している福井にしたい。そのために福井の魅力をＳＮＳや広告などで発信し、福井に来てもらうきっかけをつくる。県民が伝統工芸を体験し、口コミで広げていくなど、情報発信の仕方を変えていく。

・高校生や大学生の意見を取り入れ、他の県にはないユニークなまちづくりをめざす。例えば、恐竜好きの若者を集めて「恐竜課」をつくり、思い切ったアピールをするなど。自分たちも行政に意見を発信していきたい。

○若者グループ

テーマ：楽しみ×チャレンジで発想する未来
「若者がワクワクする福井」

・今は福井に住むことと夢を叶えることが両立できない場合があるが、交通基盤が整うと、福井から通うという選択肢ができ、サテライトオフィスやテレワークが広がれば、県外で働く必要もなくなる。多様な働き方ができることが重要

・都会をめざすのではなく、田舎を売りにして都市との差別化を図る。県民が「プロ田舎ニスト」になり、一人ひとりが自発的に福井を自慢する。そのためには、福井のことを学んだり、英語で説明できるよう、教育にも力を入れる。

・国内外から人に来てもらうためには、まずは自分たちが福井の良さを知り、伝えられるようになる必要がある。福井の良さを知るためには、県外に出てみることも大事なので、県外に出ても福井に帰ってこられる仕組みが必要

・ＡＩの発達で人との会話が減り、コミュニケーション能力が低下するのではないか。子どもへのコミュニケーション教育が必要になる。

・お金を稼ぐためには、恐竜で観光を盛り上げ、国内外から観光客を呼び込む。恐竜博物館をジュラシックパークにして、宿泊しながら長く楽しんでもらう。

・「恐竜王国ふくい」のＰＲを止めると、もっと福井の良いところが見えてくるのではないか。

○子育て世代グループ

テーマ：家族×働き方で発想する未来

「子どもと一緒にシアワセになる福井」

・働きたい女性もいれば、専業主婦を望む女性もいる。それぞれが双方の良さを認め合い、様々な生き方を受け入れられる社会であってほしい。

・三世代同居をしていても、祖父母に頼れることには限界がある。県外から来た人を含め、子育てしやすい地域にする。周囲の目が気になり、子育て支援を受けにくい環境を直すことが必要

・男性も子育てしたいと思っていても、上司の目やキャリアが気になり、育児休暇などの制度を利用しにくい。男性が家事や育児に参加できることが当たり前の社会にする。企業においても採用の際などに育児制度等をどこまで利用できるかを情報提供すべき

・県は、３人っ子政策を進めているが、１人目からの支援があるとよい。そのほか行政による家事代行サービスなどがあるとよい。

今のふくい 2019

GO GO!!

サイコー!なところ

でも県民があまり知らない…。

子育てしやすい

働きながら子育てしやすい支援が充実

失業率が低い

男女の共働き率(高)

クリエイティブなまち

伝統工芸,ものづくりのスペシャリストが多い

イマイチ…なところ

大学が少ない

学部が少なく,専門職に就きづらい…。

遊べる場所が少ない

県外に若者が流れる

ミョウ的な働き口がない

県外での就職をえらぶ

公共交通が不便

交通費が高い,便が悪い…。

↘ 人口減少につながる ↙

ユニークなまち

恐竜課でふくいをPR

人と人のコミュニケーションで活発に情報が伝わっていくまち

オープンなまち

若者部の

1 大企業を誘致

働き口,人口の増加 + 最新の情報GET + 余った土地の有効活用

2 高校生版キッザニア

企業の比較ができる + 職をよく知れる + 新しい発見も!

3 ギネス記録に挑戦

SNSで拡散 + たくさん人があつまる!

未来のふくい 2040

学生グループ

学び × 地域 で発想する未来

夢にチャレンジできる福井

福井のいいとこ体験

じっくりと時間をかけた本格的な体験

⇒ 福井のミョウを知る!

後継者が育つきっかけに

職人技術×フェス

若者グループ

楽しみ × チャレンジ で発想する未来

若者がワクワクする福井

2040年のふくい

プロ田舎ニストへの道

自分の夢を福井で!!

テレワーク インターネットで!!

任事 両立 家庭

福井で働く!!

新幹線通勤への補助

関係人口ふやす!

・方言のLINEスタンプ

・田舎のおもてなし!! ならでは

福井を発信!

車に乗らない!

車減少社会へ→

・自動運転

・バス利用

・カーシェアリング

コミュニケーション

金曜日に飲みに行く!

車いらなくなる

車減少社会

子育て♡

どうする恐竜!? VS やっぱり恐竜!

・恐竜やめます!

・やめたら福井のCMが もっと出てくる!!

・恐竜じゃないトコロで観光客をよぶ!!

・ジュラシックパーク化!!

子どもがくりゃ大人も!

県外・国外から集まった人を おもてなし

人が集まるまちづくりへ!

WOW!! アメージング!

県外・国外から

今からできる アクション!

福井のおいしいお店 発信!!

すれちがう人にあいさつ

小さなアクションから!!

・人と話す

・名乗る

毎日感謝!

やっぱり 教育 が大切!!

○語学(英会話)

○福井の歴史をもっと知る!!

"コロニー"から宇宙へ!!

ふくいなかへ

プロ田舎ニスト あと5km

郷土愛へ!

ふくい愛

時には外へ!

★福井のいいところをもっと知るために1度出てみる。

★外から福井を見る!!

行き来できる仕組み

県外に出て福井に帰ってくる!!

子育て と 教育 の環境を整える!!

・男性でもあたり前に育休がとれる!!

AI中心の社会を見こし

・コミュニケーションがとれるように!!

福井県長期VISION
子育て県福井への道
2040年
子育てグループ。
家族×働き方で発想する未来
子どもと一緒にHappyになる福井
今の福井…
父母も 祖父母も
いっぱい いっぱい
家事サービスがあっても
パパも…
育休とりづらい!!
言い出しづらい!!
気がひける…
まかせてしまう…
職場も…
長時間労働
テレワークなどの働き方は?
ママ自身も…
家事+仕事で
自分の時間がない!
子育てのために
仕事を控える…
収入が低い…
もちろん
引け目…
子育て優先の生き方があってもいい!
パパも!
男性が育休を取りやすく!!
子育てに参加したい男性を参加しやすく!!
制度を考えるだけでなく、活用を!!
パパ友のネットワークをつくる!!
イクボス!
イクボス
早く帰れよ
意識改革
いろいろな生き方を受け入れる
職場も!
テレワークなど
いろいろな働き方
雇用のときに
子育てプランを確認し合う。
長時間働く=美徳という
考え方を転換!!
結婚も
カフェなどの出会いの場を
増やす!!
出産も
県外からのんも
祖父母いないんも
県全体の手助け
"安心して産める"よう
ママも!
家事サポートを
お願いしてもいいんだ!!
共働きじゃなくてもOK!
子育てに力を入れたい!
行政も!
シニア世代
(シルバー人材など)
の活用
支援を
1人目から…
子どもといっしょに
幸せになる福井
イキイキ働く!!
+脳も輝く!!
『子育て県福井』
の確立!
みんなで共生していく
社会
子どもの教育環境
魅力ある進学先が必要
自然体験など、様々な学ぶ場を!!
安心・安全な遊び場を!!

5　分野別意見交換会における主な意見

＜産業・労働分野＞

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・まじめな気質で、何かを実現するための実行力が高い。
・一昨年の豪雪の際にも長時間かけて出勤するなど、勤勉な県民性である。
・地元愛が強く、他県に例のない協同組合方式による福井式ショッピングセンターが運営されている。
・３世代同居など、企業にとって安定した労働力を供給してもらえる社会システムがあるため、チャレンジが可能になっている。
・多様な業種（繊維・眼鏡・化学・機械）の知恵がある。
・他の地域の地方大学よりも産学連携しやすい。
・テクノポート福井は、特に化学メーカーにとっては、住宅地との距離があり操業しやすい。そのため、関西に本社のあるテクノポート福井の立地企業が、今後、福井に事業の拠点を移してくる可能性が高い。

（2）福井県の改善すべきところ

・県外に出た人がＵターンしない。
・人口減少に伴う需要の減少、人手不足への対応が進んでいない。
・人材がITなど盛り上がっている分野に流れている。
・人手不足であり、大卒人材が採用できない。事務系の人材も取れない。
・求人をしても、人材が集まらない。人材紹介会社に依頼するとコストが高い。
・薬学部を持つ大学のある都市でも製造業に就く人は少ない中、福井ではなお一層、薬剤師の確保が難しい。
・女性管理職の登用が遅れている。
・後継者がいない事業者は設備投資ができない。
・事業者に子どもがいても子どもが後を継がない、事業の先行きに不安がある場合は子どもに後を継がせたがらないなど、事業承継がうまくいっていない。
・ベンチャースピリットが不足している。出る杭を嫌がる県民性
・新規分野への進出のためにM&Aをしたいという希望があるが、企業を売りたいという情報が共有される場がない。
・プレゼンが下手。ブランディングを間違えると収益が取れない。
・ホームページの使い方、見せ方をチェックしたり、相談したりできるようなところがない。
・眼鏡のイメージ戦略が小売店任せになっている。

・眼鏡部品に産地で共通規格がないため、多様な部品となり、部品メーカーがキャパオーバーを起こしている。
・医薬品業者の組合がなく、同業者と情報交換しにくい。
・敦賀港は海流変化による座礁リスクが高く、大型コンテナ船の寄港取りやめ率が高いため、外洋接続のためには三国港の開発を進めるべき。
・敦賀港が手狭である。

（３）望ましい将来像

・AI を活用して業務の簡略化・効率化を図り、職員１人あたりの生産性が向上していること
・商品の選定を AI が行うなど、事務が省力化されていること
・生産はロボットが行い、人間はクリエイティブ・高度な業務を行っていること
・生産性の向上に向けて県が突き抜けた施策を展開していること
・福井に住みながらグローバルに活躍できる場が提供されていること
・新たな地場産業が創出されていること
・製造業が技術力を活用し、今後拡大が予想される医療分野に進出していること
・事業承継がスムーズに進む「福井モデル」が確立していること
・行政機関が企業の M&A の仲介を行っていること
・化学メーカーの事業拠点が福井に集約されていること
・福井港が活性化していること
・行政の持っているデータが原則として公開され、データを活用して地域の課題を地域が解決していること

（４）将来像を実現するために必要なこと

・２０年後に中心となって働いている若手・中堅職員が、積極的に AI を活用していく。
・IoT、５G 等の通信インフラや関連する規制緩和等、中小企業の IT 化を支援する思い切った施策を実施する。
・行政が、民間が動きやすくなるような土台を作る。（ソフト事業の実施は民間に任せる）
・中小企業や女性起業家が事業を行いやすい環境を整備する。
・人口減少による労働力低下を補うため、より働きやすい職場をつくる。再雇用や女性の活躍を企業単位で進めていく。
・「富山＝薬」のような福井のイメージを県外に浸透させるため、優れた技術を持った企業の PR を強化する。
・中部縦貫自動車道路を活用して、中京圏の有名な会社（自動車関連会社）を誘致するなど、若者が U ターンしたいと思える環境を整備する。

・雇用創出と人口増加を図るため、大規模な企業や工場を誘致する。
・奥越には雇用がないことから、グループホームなどを作って域外からも老人を集め、介護職の雇用を創出する。
・グローバル化が避けられない中、企業がグローバルスタンダードを理解できるようにする。
・数多くある中小企業が連携し、大企業にはないフットワークの良さを活用してオープンイノベーションを進める。
・駅前と郊外ショッピングセンターを公共交通機関でつなげた商圏をつくる。また、電子マネーを公共交通機関と共通化する。
・人口減少、人手不足に対応するため、中小小売店では２４時間営業は大手に任せて営業時間を短くする一方で、付加価値を向上させていく。
・都会にあるような試着専用店舗を設けて実際の販売はネットで行うという業態や、小売店が商品を届けてくれるサービスに中小事業者が対応していく。
・買い物難民対策として、電話等で注文を受けて即日配達するサービスを展開する。
・グローバル化の中で地方の中小企業が生き残るため、どんな企業を相手にしても勝てる事業領域を構築する。
・今ある仕事が将来なくなるかもしれないと想定しながら業態を変えていく。
・眼鏡などの製造業においてマーケティングや広告に注力する（今治タオルの成功はマーケティングや広告のうまさにある）
・人手不足であっても自動化や合理化ができない中小零細企業に対して、行政などがきめ細かく支援する。
・中部縦貫自動車道を早期に開通させ、物流の利便性を向上させる。
・行政が上場予備軍を後押しする。
・LNG の拠点をテクノポート福井近辺に構築する。（燃料を LNG に切り替えている企業が多い。LNG の使用により環境配慮企業としてのイメージアップになる）
・テクノポート福井に立地する企業が活用することができるトラックの待機所（駐車場）を確保する。
・三国の道の駅を中心にファミレスやレンタサイクルを充実させるとともに ATM や宅配ロッカーなどのサービス施設を充実させ、若い人が働きたいと思える賑わいのある便利なエリアを作る。
・福井港の活性化のため、コンテナの取扱いができるように港湾機能を強化する。また、港湾からの物流ルートとなる高速道路までの道路整備を進める。
・敦賀港のふ頭再編、岸壁延伸、静穏度対策を進める。
・福井に化学メーカーが数多く操業している（操業しやすい）ことを周知する。
・物流が止まって企業の負担にならないよう、特に除雪対応を強化する。
・将来を担う子どもたちが公共機関の持つデータを活用することに向け、公共のデータを自由に利用できるようにしておく。

＜農林水産（加工品含む）分野＞

（１）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・それぞれの地域に福井らしい「食」がある。
・地域に特色ある食文化がある。
・食物が豊かで、おいしい。
・水が豊かで高品質の作物が作れる。
・九頭竜川パイプラインにより、用水が安定供給されている。
・圃場整備率日本一
・全国で一番良い植物が育つ県であり、多くの植物の北限・南限である。

（２）福井県の改善すべきところ

・後継者不足、人材確保が困難
・家族農業が衰退してきている。
・農村を維持管理する人口が少なく、個人の負担が大きすぎる。
・農業の担い手減少により、もともと生産者が少ない「伝統野菜」「中山間農業」が衰退してきている。
・小中高生の農業に対する関心が低下している。
・農林水産物のブランド品（全国に名前が売れているもの）が少ない。
・消費地が遠く、消費者が少ない。（首都圏付近は直売所でも客が多い）
・中山間地域の圃場がうまく管理できていない。
・小規模集落では耕作放棄地や荒れ地が多く、田の面積も小さいため大型機械が入らない。
・木材価格の低迷により、木材産業全体が経営不安に陥っている。
・ＪＡが商社化しており農家から農業生産を積極的に請け負うよう転換すべき
・役所に提出する書類が煩雑（コスト、負担が大きい）

（３）望ましい将来像

・農業が魅力ある産業となり、若者にとって就職の際の選択肢となっていること
・農家収入が増加していること（ブランド化、付加価値増）
・新規就農した若者により、地域が元気になっていること
・生産者の減少に対応するための農業の自動化、それに必要な関連技術の開発が進んでいること
・何歳になっても元気に働ける環境が整っていること
・安定した収入があり、全ての世代が担うことのできる農業が確立していること
・中小零細事業者が安定した経営を行っていること
・林業従事者の年収５００万円が実現されていること

・地場産業が根付き、地域内で経済が循環していること
・中山間地などの人口が少ない地域にも人が増え、住みやすい社会を維持できていること
・農福連携によって伝統野菜の栽培や中山間農業を行い、地域の魅力を創造していること
・農村地域の人手不足を外国人労働者が担っていること
・地域の食文化を大切にする風潮が守られていること
・農産物の地産地消が広まっていること
・米だけでなく野菜作りも行い、地域内での循環性を高めていること
・木質バイオマス等の活用により、エネルギー自給率100％となっていること
・森林の管理は、私有地であっても公的機関が担っていること

（４）将来像を実現するために必要なこと

・農業を志す若者のスタートアップをサポートする。
・個々の新規就農者の成功理由や失敗原因を分析し、新規就農者をサポートする。
・成功や失敗体験を新規就農者同士が議論できる場を設置する。
・職業として農業を選択した場合に、それを支援するシステムを構築する。
・新規農業参入者への経営講習や経営診断窓口を充実させる。
・ハード整備だけではなく、ハードを活用するための活動経費に対する補助を充実させる。
・新規就農者に対する実態調査を行い、生活基盤のサポートを行う支援体制も構築する。
・小規模から気軽に就農できる仕組みをつくる。
・新規就農者の農業技術の習得、地域への溶け込みのため、普及指導員を増員してきめ細かな支援を行う。
・優秀な学生を集めて農林水産分野の新たなアイデアを生む機会を創出する。
・学生時代に先進的な農業技術に触れる機会を作る、専門資格の取得を支援する。
・日本の食料自給率の向上はもちろん、世界の飢餓問題にも目を向ける人材を育成する。
・農業を体験できるインターンシップ、ワークステイシステムを構築する。
・地域版「かみなか農楽舎」をつくる。
・子ども向け農業体験、就農者向け農業体験（スマート農業など）を実施する。
・学校教育において歴史や文化を学ぶ時間、農業体験の機会を増やす。
・今後のさらなる米の生産調整に向け、大麦・蕎麦以外の新たな品目を推進する。
・米の消費量の減少を考え、水田から園芸作物用へ大掛かりな土地改良を進める。
・６次産業化はビジネスセンスのあるものに特化して推進する。
・商品（地酒）のストーリーの裏付け、ストーリー性のある原料を供給する。

・国内外への販売量を増加させる。
・農業への先端技術導入を促進する。
・農業者が営農に専念できる体制（草刈り、泥上げ等の対策）を構築する。
・農家の息子など、将来、農家の後継者となる人材を支援する仕組みを構築する。
・２０年後の米の需給や農業構造を示し、経営体に真剣に考えさせる。
・農業の担い手を、農地維持（国土保全）する者と経営発展を追求する者に色分けして対策を進める。
・農地維持（国土保全）と食料の安全保障のため、経営所得安定対策を継続していく。
・中小事業者では対応困難な技術開発や成分分析等に対する支援を継続する。
・小規模の食品産業事業者は商圏内の人口が販売額に直結するため、人口を維持～増加させる施策を進める。
・これまで地域が共同して行ってきた用排水の管理を、これからどのように行っていくかを検討する。
・営利目的の企業が参入できない伝統野菜の栽培や中山間農業への農福連携団体の参入を促進する。障がい者就労施設に６次産業化ができる施設を整備する。
・耐雪型ハウスの整備を促進する。
・道路を作らなくても間伐や木材搬出ができる遠隔操作可能な作業用ロボットを開発する。
・効率的な作業を行う林業機械、器具の開発。ハイブリッド化（燃費向上）された林業機械を開発する。
・木材の特質を生かしたオンリーワンを見つけ、それに特化した事業形態づくりを進める。（大径木は他県材に対して優位性があるため、付加価値の付け方次第で道が開けてくる可能性がある。）
・森林組合や木材市場を一元化する。
・農業用整備（用水、暗渠）の老朽化に対する施策を進める。
・生活改良普及員を増員する。
・直売所や学校給食を通して地産地消をすすめる。
・JAによる農業生産（請負）を拡大させる。

＜まちづくり・観光・文化・交通分野＞

（１）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・神楽などの大人と子どもが関わる伝統行事が続いている。
・コミュニティが形成され、高齢者が安全に暮らせる（声かけ、見守り）
・自然があり、四季を感じられる。自然に恵まれている。
・森や川遊びができる。
・九頭竜川橋りょうは、ドイツのアウトバーンを彷彿とさせ、日本唯一といってもよく、県内で一番の見せ場である。
・福井城の石垣は、切り石積みで日本有数の歴史ある福井の宝である。

（２）福井県の改善すべきところ

・福井駅に降りたときに、福井の売りは何か、それに出会うための移動手段は何かなどが分からない。
・福井駅に降りても、カニや魚の売っているところに行けない。どこに売っているかもわからない。誘客へのやる気が見えない。
・福井駅構内にホテルや旅館の位置が視覚的にわかるマップ表示がない。
・福井駅周辺でカニを食べたり、買う場所がない。
・福井駅前に大型バスを駐車・停車しておく場所がない。
・恐竜博物館への来場者が他の県内観光地へ周遊しない。
・PRが下手で、先進的なことをしても、それをひけらかさない・言わないことを美徳と考えている。
・福井の強みを県内外にアピールできていない。
・自然が豊富であるが、それを活かしきれていない。
・まちづくり団体に若者が入らず、高齢化が進んでいる。
・古くからの集落では、地域活性化のために外から入る人や移住者を拒む傾向がある。
・人口減少が止まらず、空き家が増えている。
・県立美術館が手狭である。
・能楽堂がない。（ハピリンの能楽堂は多目的ホールであり、能楽堂ではない）
・アプリを使ったタクシーの事前確定運賃サービスが全国で今年１０月から始まるが、各交通圏域（福井・丹南・敦賀エリア）でそれぞれ直近年度の全車両の輸送実績（日々のデータ）を分析して提出する必要があり、県内事業者にはハードルが高く、現時点で導入の動きがない。（石川、富山では導入の動きがある）
・バス運転手が高齢化し、人材が不足している（タクシー運転手は少し若い）
・若狭の里公園の見通しが悪く防犯上好ましくない。平地が少なく、多目的に使える広場がない。周辺の古民家がうっそうとしており野生動物が住み着いている。

（３）望ましい将来像

・観光客があふれていること
・観光強化によって移住を促進し、人口を１．５倍にすること
・都会を目標とせず、今ある資源を積極的に維持・活用していくこと
・音楽祭などの文化イベントにより、交流人口が増えていること
・観光名所や観光ルートとして、文化財が目玉になっていること
・新しい文化を創造していること
・公共交通機関の利用が活発であること
・高齢者の移動手段として自動運転が普及していること
・冬季や荒天時にも電車が止まらないこと
・小松空港へのアクセスが向上していること
・子どもたちの声が響き渡る、明るく獣害のない里であること
・まちづくり活動へのリピーター率が上がり、活動参加者が増えること
・地域の人々が互いにつながり、孤立していないこと

（４）将来像を実現するために必要なこと

・観光を専門に考えるDMCを設立し、資源の掘り起こしや金銭面・手法等のサポートをしていく。
・新幹線開業までのキャンペーン展開とは別に、５年後、１０年後を見据え、各観光資源や地域全体のブランディングをどうしていくかを整理する。
・冬のカニに対する認識の差など、首都圏・中京圏・関西圏それぞれの文化、福井との距離感や結びつきの違い等を理解しながら、各々に対しＰＲしていく。
・直接福井への誘客を促すだけでなく、金沢経由で福井へ、京都経由で福井へ来る人など旅行者の行動を意識したＰＲを行う。
・県外からの移住者の視点・力を活用し、福井の良さを発信していく。
・観光客の増加に向け、ＳＮＳでの情報発信に加え、民間の力を借り、観光のあらゆるデータをデジタル化（できれば動画化）し、情報の検索や拡散を促していく。
・福井駅前に恐竜モニュメントや壁画などもあるが、これらのようにインフルエンサーや観光客が情報を発信・拡散したくなるような仕掛けをつくっていく。
・福井のキラーコンテンツと、埋もれていて磨けば光るコンテンツを売り方を工夫しながらどんどん発信していく。
・観光コンテンツの良さ・楽しみ方の提案、ネット検索できるようアクセスの確保と周遊ルートの設定・提案を準備する。
・２～３日の観光モデル、１週間の観光モデルを作って、都会から人を呼び込み、田舎での自然豊かな暮らしを体験してもらい、その人たちが移住したくなるような仕組みをつくる。

・金沢のように、マスコミをうまく活用して観光客増加を図っていく（金沢開業時は、多くの全国番組で金沢が特集されていた）。
・福井の観光においては特に食が大事であり、福井の食材を使用している飲食店等を積極的に発信していく。
・旅の目的の一つである「食」の魅力を高めるには、素材だけではなくメニューを充実させる。
・食による誘客を進めるため、飲食店に新幹線開業や訪日外国人の増加をチャンスと捉える意識を持ってもらう。どのような準備をすれば良いか、トラブルの際の対応などを含め情報提供し、受入体制の整備を促進していく。
・文化（文化財）の情報発信に関しては、文化に詳しい人からの発信であるがゆえ、享受者側の感性と異なるものが多い。旅行者含め何も知らない人がどういう情報を求めているのかという視点に立ち、情報を整理し発信していく。
・文化は地域の魅力そのものであり、これを観光に活かしていく。
・自分で漉いた越前和紙を越前塗の額縁に入れて飾るなど、観光コンテンツ同士をストーリー化し、体験を「見える化」させる（記憶に残るものを創る）。
・既存の観光地だけでなく、２０年後にうける隠れた観光地を発掘する（先手を取るためには、リスクを恐れないことも必要）。
・金沢に来ている外国人を福井に呼び込むため、福井を旅の目的地化するようなコンテンツを育成する。
・恐竜など国内向けのコンテンツを、見せ方の変化やターゲットの見極めをしたうえで、インバウンド向けに活用していく。
・狭い範囲に集積する多様な伝統工芸を、インバウンド向けに活用していく。
・外国人、特に欧米人は体験・文化への興味が高いため、歴史やその背景など欲している情報を理解し、伝えていく。
・中部縦貫自動車道開通や新幹線の大阪開業なども見据え、近隣府県との広域連携を強化する。
・新たに新幹線が開業する加賀地域との連携を強化していく。
・人を呼びこむため、伝統産業と観光、農業と観光、交通と観光などを組み合わせていく。
・行政や観光事業者以外の人を含め全ての県民の理解の下、一丸となってＰＲや受入体制整備等の施策を進めていく。
・福井の人が福井の良さを理解し観光客に紹介・自慢できるよう、県民が自分たちの持っている素材を信じて意識して人を呼び込もうとする意識を醸成する。
・生活することと観光は密接に関連するものであり、観光に直接携わらない人も積極的に参加できるよう誘導し、地域住民の内発的な取組みにつなげる。
・物販や民泊などを実施しようとする外部の人間を受け入れるための住民の理解と意識改革を進めていく。

・空き家（古民家）を改修し、移住者が住みやすい環境をつくる。
・福井の良い点を掘り起こして内外に発信し、来てもらえる・住んでもらえる地域づくりを進める。
・福井の第一印象をよくするため、福井駅前の空き店舗を減らすなど、駅周辺の活性化を進める。
・福井駅構内の目立つ場所に福井の売りを大きく表示する。
・新幹線駅の周辺において気軽にまち歩き観光ができるような環境を整える。
・魅力ある並木や花などの景観を整える。
・施設の接客態度や地元民とのふれあいの善し悪しが旅の満足度に響くので、県民のホスピタリティを高める意識の啓発・改革を進める。
・自動車を利用する観光客が多いため、観光地周辺の道路整備を進める。
・市や商工会議所などが別々に同じようなイベントをするのでなく、一緒になって大きいことをしていく。
・夜の祭りの実施や店舗の閉店時間を遅くするなどにより、宿泊客の増加や消費単価の増加を図っていく。
・女性が集まる場所に多くの人が集まることから、魅力的なスイーツと土産物を開発する。
・白山連峰が見える絶景に、タワーを建設する（新幹線が来るまでの間も楽しめるよう工事中の写真や日本や世界の新幹線の紹介などを展示し、家族で楽しめる「新幹線のひろば」にする）。
・歴史、自然史、子ども向けなどコンセプトの異なる博物館や資料館などをより積極的に広告・宣伝していく。
・福井にプロのオーケストラを創設し、プロ志望の若手演奏家を受け入れる。
・音楽祭の開催を通して、福井県に音楽文化を根付かせ、対外的に発信していく。
・福井県のランドマークとして、福井城天守閣の復元や石垣の整備を行い、県民の意識向上を図っていく。
・福井の大学に芸術系学部を創設する。
・サブカルチャー（ストリートダンス、同人誌、アニメソング、映画など）に取り組む若者の育成につながる支援をしていく。
・点在している観光地を周遊させるための二次交通を充実させる。また、嶺南にも周遊させる。
・電車、バス等の公共交通機関による移動手段を充実させる。
・バスのキャッシュレス化、google 検索が可能になるようにしていく。
・はとバスのような観光周遊バスを導入するため、観光周遊バスの周知を強化し、需要を高めていく。
・自転車専用道路や自転車利用者向けの案内標識を整備するとともに、レンタル自転車を増やす。

・コンパクトなまちづくりにより利便性を向上させ、社会基盤整備費を縮減する。
・嶺南誘客の目玉の創造および観光資源を活かした教育旅行をさらに進める。
・防犯や利用者の安全確保の観点から、若狭の里公園周辺の老朽古民家を撤去する。
樹木を間引きして多目的で使うことのできる平地を増やす。

＜結婚・子育て、県民活躍分野＞

（１）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・地域で子どもを見てくれる。

（２）福井県の改善すべきところ

・大卒女性の働く場所が少ない。
・いずれはＵターンしたいと考える人が働く場所がない。
・女性が活躍あるいは認められて生きていくための環境が整っていない。
・女性を管理職に登用しようとする場合、家庭を理由に辞退するなど、しり込みする人が多い。（男性に育児・家事能力がないといった女性の意識）
・女性が働きすぎている。
・子どもが風邪をひいた際でも仕事を休めずに、病児保育を利用せざるを得ないことが、子育ての負担になっている。
・育休の取得により、その後の昇進に影響が出る。
・昔の風習が残っている地域があり、男性の家事・育児参加が進んでいない。
・若者が福井に魅力を感じていない。
・若者にハングリーさが足りない。
・若者に訴求する仕事がない。
・保育士不足や業務の多忙化により保育士が資質向上のための時間をとれていない。
・保育所は、子どもの主体性や非認知能力を養成する幼児教育を実施しているが、小学校の意識が変わっておらず、１年生になったら赤ちゃん扱いされるなど、就学時までに育った能力がその後に活かされていない。
・休日や雨天時に利用できる子育て施設が奥越にない。

（３）望ましい将来像

・若い世代が結婚に関心を持ち、子どもを持っていること
・女性の働き方の多様性が確保されていること
・意識の上で、男女ともにフラットな社会であること
・子育てしやすい県であること
・子育ての際のワークライフバランスが充実していること
・子育てを保育所だけでなく、社会全体で支えていること
・保育園と高齢者のデイサービスが一体となって、子どもと老人がお互いに支えあい、協力・連携するまちづくりが進んでいること
・都会と変わらない仕事ができる、能力を伸ばせる地域であること
・進学や就職のために県外に出ても福井に戻ってくる人が増えること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・少子化対策（共働き世帯だと、高校無償化が適用されない。）
・若いうちに赤ちゃんに触れる機会をつくったり、人生設計を考えさせたりすることにより、結婚・子育ての喜びに気づかせる。
・結婚を推進するため、様々な形で男女が自然に出会えるような施策を実施する。
・大卒女性の働く場所を確保する。
・女性の管理職を増やしていく。
・いわゆる３Ｋといわれる現場部門や企業における女性の管理職登用を進めるため、経営層・管理職・男性の意識改革を進める。
・女性の選択肢が増えるよう、在宅育児を希望する場合には手当を支給、保育を希望する場合には安心して保育を受けられる体制を整えるなど、保育所への入所のためや勤務先の求めに応じて育休を切り上げるという現在の状況を変えていく。
・女性が子どもを産んで、仮に仕事を辞めたとしても、常勤や短時間など希望に応じて仕事を始められるような環境を整備していく。
・企業に育休１年を義務化して違反したら罰則など、全国に先駆けた福井独自の労働環境改善策を検討する。
・親と子がもっと関われるような労働環境をつくるため、３歳までの育児休暇の法定化、子どもが病気のときの看護休暇の取得を義務化する。
・女性の社会進出の高まりに応じて、男性の家事・育児への参加を進める。
・学校教育において男女共同参画（男児には育児・家事参加、女児には将来のキャリア形成など）を計画的に実施するなど、子どもの頃から意識付けを行う。
・考え方が柔軟な若者に男女共同参画の価値観を作っていく。
・産業の充実と保育の受け皿を確保し、仕事がしやすい、子育てしやすい、生活しやすいをPRしていく。
・保育士確保のため、保育士の処遇改善、社会的地位の向上を進める。
・放課後児童クラブや子ども食堂などの施設を元気な高齢者が支援している現在の体制をさらに拡充していく。
・福井×グローバル等の成功事例を広く周知する。
・福井の良さをうまくアピールする。
・「若い女性が集まる」という視点を持ってまちづくりを進めていく。
・スローライフが送れるまちとして若者を呼び込む。

＜医療・介護・福祉・健康分野＞

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・二次医療圏などのエリアがコンパクトであるため、大規模病院と中小規模病院、職員同士が顔の見える関係を築いている。

（2）福井県の改善すべきところ

・交通網が充実していないため、免許を返納した高齢者は移動手段がなくなる。
・高齢者が安心して利用できる道路、交通、まちとなっていない。
・障がい福祉分野の現場に携わる職員が足りない
・障がいに対する課題共有の場が少ない。市町職員に対する支援ができていない。
・共生社会に向けた意識改革が進んでいない。障がいのことが理解されていない。

（3）望ましい将来像

・ITやAIを活用した適切な看護の提供と効率化が図られていること
・地域のつながりを重視した在宅、施設などでの看護サービスが提供されていること
・医療介護が充実し、高齢者が車に頼らず生活するために交通機関や買い物の場所が確保されていること
・安定した福祉（高齢者）がいつまでも続くこと
・障がい者も含めて皆が主役となって役割を果たしていくこと
・障がい者が自分で選択して決められる世の中であること
・障がい者専用住宅が各地に備わっていること
・健康的な生活習慣が多くの人の常識になっていること
・誰もが健康で生涯にわたって働けること
・介護のために仕事を辞めなくてもよい社会であること
・老人会の会員が、一部は支える側、一部は支えられる側になること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・先端技術を活用した介護業務の合理化について、県立大学などで研究する。
・身体疾患と認知症を併発した高齢者向けにターミナルケアまで提供できる療養環境を整備する。
・質の高い医療サービスが提供されるよう、利用者が医療や介護の必要性についての理解を深める。
・在宅医療の推進によって需要が拡大する訪問看護に対応できる人材を育成する。
・幅広い看護ニーズに対応できる看護師等を育成するためのスキルアップ体制整備と看護職員の定着を促進する。

・訪問看護ステーションや社会福祉施設などでのインターンシップを実施し、学生の就労先の選択肢を拡大する。
・看護人材確保のために外国人材を受け入れるとともに教育を充実させる。
・県が福祉、土木、サービス業など全産業の外国人材の受け入れ機関を担って人材を確保し、それぞれの人の適性に合わせて各業種に配属する。
・外国人材のマッチングがしやすくなるよう、外国人版ハローワークを設置する。
・学校の空き教室を利用して外国人対象の日本語教育を行う。
・高齢者のフレイル予防や孤立防止のため、共食の場を積極的につくる。
・高齢者の移動手段を確保するため、デイサービスの送迎に使用しているバスを当番制で地域を循環させる。
・障がい者の移動手段として交通機関の充実を図る。
・これから介護施設の需要が減るため、今以上の施設が必要かを議論し、施設の乱立を防ぐ。
・介護利用者の多い市町に施設をつくるのではなく、県全体を見て嶺南・丹南・奥越などに空いている施設があれば、市町を超えて利用者が移動できる体制を構築する。
・県全体の地域包括ケアを推進する。
・健常者と障がい者がお互いに思いやりを持つための教育、啓発を進める。
・障がい者が休日に体を動かせる場をつくる。
・子どもの頃の生活習慣が大人になっても大きく影響するため、保育所等での給食や家庭での食事も含めて、子どもに対する食育を充実させる。
・若いうちから減塩などの健康づくりを進める。
・フレイル予防を一層進めていく。
・高齢者は家で食事を作らないため、加工食品や総菜を健康づくりに活用する。
・医療的ケア児を持ち、常に看護している親に対する支援を強化する。
・支え合いや助けあいの基盤として、町内の老人会の組織化を強化していく。

＜防災・環境分野＞

（１）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・森林、農地、湖沼、海など多様な自然環境が、産業を発展させている。
・かつて六呂師が２年連続で「日本一きれいな星空」に選ばれるなど、自然環境の豊かな地域である。

（２）福井県の改善すべきところ

・避難所の中に、距離がある、川を渡る必要があるなど、不適切な避難所がある。
・山間部の住宅や大雨の際には、防災無線の音声が聞こえない。

（３）望ましい将来像

・「心の豊かさにつながる環境」を創り出していること（ニーズは県民から　技術は世界から）
・都会を追いかけていくのではなくて、自然を生かしていること
・脱炭素地域を日本で一番早く宣言していること（東京では困難だが、福井なら可能ではないか。）
・車社会から脱却していること
・自然エネルギーに転換していること
・太陽光発電を行う家庭において、蓄電池等が活用されていること
・太陽光、水力、風力、バイオマスエネルギーをフル活用し、エネルギー自給率１００％になっていること
・自然と共生し、緑があふれていること
・「生物多様性のお手本」になっていること
・子供のころから自然と触れ合い、地域の自然を誇りに思える体験が多いこと
・自然環境について「身近なもの」と県民が思っていること
・誰もが自然と触れ合い、自ら守っていること
・自然が大好きな県民が育っていること
・大人も子供も自然に触れ合うことができ、生き物と人間が互いに住みやすい環境であること
・県民の環境に対する意識が高いこと
・一人一人が環境保全の意識を持ち、次の世代・孫の世代へも伝えようとする意識を持っていること
・地域全体がチームとして、環境保全に取り組んでいること
・生き物が暮らしやすい環境を作るだけでなく、人も住みやすく、共生ができること
・地産地消を推進していること

・ゴミが少ないこと
・プラスチックごみを、ほぼ0にしていること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・豊かな自然環境を活用した地域振興、次世代を担う子供たちへの環境教育や人財育成を推進する。
・県の豊かな自然資源・グリーンインフラを活かした地域づくりを推進する。
・これまで集約的に利用してきた土地を、自然や半自然の粗放的な土地利用に見直す。
・「自然を大切に」一辺倒の意識を改めていく。
・都会との比較、立場の違いから自然環境を考える機会を創出する。
・環境について、「変わっていくこと」を前提として政策を進める。（例えば、無くなっていく雑木林を復活させる必要があるのか。無くなるものがある中で行政はどう考えていくのかが重要）
・福井だけにしかない自然に目を向ける。逆に福井に無いような他府県の自然に目を向ける。
・Ｖ２Ｈ（電気自動車等の電力を家庭用の電力供給源として利用すること）への支援を行う。
・環境省や国交省が進めているグリーンスローモビリティ（時速２０km未満で公道を走ることができる４人乗り以上の電動モビリティ）の導入を促進する。
・カーシェアリングの普及を促進し、きめ細やかな地域交通網を発達させる。
・物流における二酸化炭素の排出抑制を推進する。
・河川での中小規模の水力発電の開発、洋上発電の開発、地熱エネルギーの有効活用を促進する。
・セミナーなどを積極的に行い、ＺＥＢ・ＺＥＨ（省エネと創エネによりエネルギー収支ゼロを目指すビル・家）を推進する。
・巨大な自然公園を作り、観光地化する。
・季節を感じることができる、自然を生かしたものを作ることができるショップの展開を促進する。
・都市部に緑を増やす。（花壇、街路樹、グリーンカーテンなど）
・大野のきれいな水を活用して「足水」ができる場所を作るなど、自然を生かしていく。
・学校教育の場で、体験活動等の充実を図る。
・子どもが生き物と触れ合えるような環境に関わるイベントを開催する。
・幼児教育から自然に触れ、大人になっても自然体験ができる機会を創出する。
・環境に関する科目などを教育現場で取り入れ、環境に関わる機会を増やす。
・子供達が自然（里山など）と触れ合うことのできる機会を増やす。

・足羽川沿いを整備し、河川で遊べるようにする。
・自然に対する恐怖心を取り除くような取組を実施する。
・福井県の自然を感じ、守ろうとする活動を推進する。
・「環境の日」を創設する。（県民が、毎年１つでいいので環境の目標を作る。それができれば約８０万の目標が出来上がる）
・環境についてグループになって考えていける話し合いの場を創設する。
・環境に関するイベントの周知を強化する。
・行政だけで環境保全活動や環境教育を行うことは困難なので、地域の環境関係団体と連携した取り組みを推進する。
・希少種保全・外来種対策を推進する。
・使い捨てをせず、修復して長く使える文化と技術に支えられた県民生活空間を創出する。
・植樹やゴミ拾い等を地域単位で行う機会を増やす。
・IoT を活用し、環境に関する情報を拡散する。
・各家庭での分別を強化する。
・停電時には防災無線やメールは使えない可能性がある。災害が起きた状態を想定して備えを進めていく。

＜教育分野＞

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・頑張って挑戦しようという人に対して、一生懸命応援する気風がある。
・モノづくりの県であり、理系の人材が活躍できる場が多い。
・教員の質が高く、教育レベルが高い。
・教員の努力や研修によって、幼児教育も進んでいる。

（2）福井県の改善すべきところ

・多くの高校生が、県内に行きたい学部がなく、県外に進学している。
・自分が身に着けた力を活かせる場所が福井にあるのかと悩んでいる学生が多い。
・優秀な学生が活躍できる職場がない。
・保護者の地域企業に対する認識が低い。
・大学や企業との連携などの校外活動が休日や夏休みなどに設定され、働き方改革に逆行している。
・登下校の安全対策を担う見守り隊が減少していく。

（3）望ましい将来像

・子どもたちが地域を知り、ふるさとを好きになっていること
・子どもも教員も地域を愛し、地域へのプライドをもっていること
・子どもたちが福井に自信を持っていること
・福井を愛する心を持ち、福井の魅力を誇れる、福井を支える人材が育っていること
・高校を卒業して地元で就職する生徒が活躍できること
・激しい社会変化に対応し、活躍できる人材が育っていること
・世界に羽ばたく人材が育っていること
・どこで暮らしていても自分の良さを発揮し、社会の一員として働く人材が育っていること
・起業できる人材が育っていること
・AI を操り、AI にできないことをやる人材が育っていること
・地域で自主的に活動できる人材が育っていること
・社会情勢や社会構造が変化したとしても、変わらず人と人との関係を大切にできる人材が育っていること
・子どもたちが笑顔で夢を語り合える学校であること
・教職員が笑顔で誇りをもって働くことができる学校であること
・子どもたちが生涯にわたって運動に親しむための基礎がつくられていること
・一人ひとりに目が届く教育、豊かな食の食育など固有の魅力を持つこと

・地域で子どもを育てていけること

（4）将来像を実現するために必要なこと

・福井を愛する子どもを育成するため、授業で福井の魅力に触れる、教員が福井の魅力に気づく施策を進める。
・ふるさとを愛する子どもを増やす教育を進める。
・子どもたちに福井の良さや福井ならではの自然や産業、文化を体験・理解させる教育を進める。
・教員や生徒が学校外に出て社会のことを学ぶ機会を増やす。短期の職場体験だけでなく、長期のインターンシップも実施する。
・教員が、ふるさとや企業のことを知る施策を進める。そのための時間的なゆとりと環境をつくる。
・教員が県外や海外に出て、地元の良さを発見する機会を増やす。
・地域の宣伝力や商売力を高める教育を進める。
・総合的な学習で児童生徒がまとめた内容を、市町に提言できる場を設定する。
・子どもたちに魅力ある地域の中小企業を紹介していく。
・自己肯定感を高め、子どもに自信を持たせる教育を推進する。
・実体験を重視した教育を進める。
・福井県内の大学の学部を増やし、魅力ある高等教育を実現する。
・将来の夢をかなえるための勉強が福井県内の大学でできるよう、県内の国公私立大学の連携を強化する。
・県外や海外へ行きたいという職業系高校生を金銭面で支援する。
・未来を切り開く子どもを育てるため、これまでと違った教育を進める。
・子どものコミュニケーション能力を育成するために、基礎基本の指導を充実させるとともに、国内外の多様な人々との交流を行う機会を増やす。
・起業のためのスキル教育を実施する。
・思いやりや道徳心など、心の教育を強化する。
・互いを尊重し、多様さを認める人権教育を進める。
・もっと自由なクラス編成を行い、少人数で、自分の興味のあることを自由に学べるような教育に変えていく。
・保育や教育の第一線の人材が福井にいて、福井の教員が未来に向けて学び続けられるような環境整備を進める。
・部活指導者や教科の優れた指導者が適材適所となるよう、人事異動に際して、もっと校長の希望に配慮する。
・教員の余裕を確保するため、部活動支援員等を増員する。
・教材研究の時間確保、業務のスリム化、若手教員のフォロー体制構築や風通しの良い職場づくりにより、教員の業務環境を改善する。

・小学校において、担任を持たずに体育の授業改善や体力向上を推進する「体育専科教員」を導入する。
・一人ひとりに目を配り、個性を伸ばしていくために少人数教育を充実させる。
・個に応じた教育を今まで以上に充実させる。
・保幼小中高のつながりを大切にした教育を充実させる。
・小規模校でも子どもを育成できるよう、遠隔システムの活用を進める。
・全日制高校にも、スクールカウンセラーを配置する。
・農業、福祉、教育分野が連携し、特別支援学校におけるキャリア教育を充実する。
・支援や配慮を必要とする児童生徒に対してより充実した授業を実施するため、ICT機器の整備を進める。
・特別支援学校だけでなく、小中高校においても、特別支援教育に関する教職員の専門性向上を図っていく。
・食育を推進するため、栄養教職員の定数を増やし、兼務校数を改善する。
・大規模校における養護教員の複数配置を継続するなどにより、子どもの健康保持や健康教育を推進する。
・学校以外に子どもや家族同士がつながる持続可能なコミュニティ（地域スポーツクラブやキャンプなどの体験活動）を構築する。
・子育てにおいて、学校・地域・家庭の役割を明確化させる。（学校任せは限界）
・学校だけでなく、地域や行政、企業等と連携した教育を進める。
・各特別支援学校が地域と連携し学校のビジョンや教育の在り方を検討していく。
・子どもたちの学びを保証するための、優秀な教員を確保する。
・教員の資質向上、教員志望者を増やす施策を進める。
・改訂された学習指導要領にある「主体的・対話的」な教育を進めるため、教員の意識や価値観を変革するような訓練を進める。
・事務職員の学校運営への参画を推進する。

6　県外在住者等との意見交換会

（1）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

○自然、食

・田んぼが多く自然が豊か
・海山川が豊かで、素晴らしい自然がある。
・郊外の田園風景は郷愁を感じさせる。
・日本の原風景がそこかしこにある。
・自然が良いのは当たり前と考えているかもしれないが、都会からくると新鮮
・都会では花を見ることがないのに対し、福井では花が咲いたのを見て季節を感じることができる。
・自然、豊かな土地、住環境や教育環境。田舎で育ったことは今も良かったと思う。
・雪が降り、スキー、温泉等々、冬を体感できる観光資源がある。
・自然豊かで農産物海産物が美味しい。
・水が綺麗で食が豊か
・刺身などの食や酒がおいしく都会の人間にも大いに自慢できる。
・美味しいお米、野菜、魚がある。

○家庭、地域

・地域の人が元気でやさしくゆったりしていて接しやすい。
・独特の文化が根付き、人と人の縁が濃い。
・少人口であることが魅力の一つ。少ない人口でも助け合う精神があり素晴らしい。
・地縁、血縁の助け合い精神が福井のいいところ。これを新しい転入者へも分け隔てなく発揮すれば、福井の魅力はさらに上がる。
・福井にあるもてなしの文化は、「具体的に見返りを求めるわけではないが、いずれどこかで返す」という緩やかな共助社会。人口が減る中、強みを発揮できるのではないか。
・家族間の人間関係が緊密で夫婦共稼ぎが支障なく行われている。このため、世帯あたりの所得が東京などに比較しても高く、余裕をもった生活が可能
・地域おこし協力隊として自分を必要としてくれる地元の人たちがいることが、使命感、活動のモチベーションに繋がっている。
・地域の人が活動に積極的に関わっている。

○子育て

・３世代近居等、子育て世代にやさしい環境
・子供を遊ばせる大きな公園やエンゼルランドなど無料で使える施設が多い。

○教育

・高校までの教育環境が優れている。
・子どもが元気で、学力が高いのにスポーツや文化的な活動も頑張っている。

○産業・技術

・伝統産業がしっかりしていて、伝統工芸品や製造技術等世界と勝負できる素材がある。

・狭い県土に豊富な観光、企業、人材の資源を有する。

○まちづくり

・新幹線と特急をうまく使えば大阪、名古屋は２時間程度の距離にある。東京でも３時間半で行ける立地にあり、大都市のアクセスは比較的よい。

・恐竜、東尋坊、越前ガニというイメージが定着している。

○安全、安心

・治安がよく住みやすい。

○人材

・社長輩出率が全国トップであり、行動力のあるプレイヤーが多い。

○伝統、文化

・永平寺、朝倉遺跡、恐竜発掘、リアス式海岸など歴史、伝統がある。

・祭りや独特の風習が多く残っている。

（2）福井県の改善すべきところ

○自然、食

・地産地消にこだわりすぎている。

○家庭、地域

・家族が家庭にいると「遊んでいる」と評価されるが、県外の方が聞くと非常に聞き苦しく、印象が悪い。
・他所から来た人を受け入れにくいと言われることがよくある。一方で「東京の人なら」と、都会に憧れる意識も高く、人物や経歴より有名なところにいたかだけを見て受け入れる事もあり困惑する。田舎コンプレックスが強いといい文化の発展はない。
・強固なコミュニティができており、移住者にとって適応が厳しい環境である。
・移住者はいつまでも「よそ者」という扱いを受け、意見を認めてもらえないと感じる。
・Ｉターンを進めるためには、地域が外の人を受け入れる気持ちが必要。地域の体制が整っていれば相乗効果が生まれるが一方的ではうまくいかない。
・近所付き合いが濃厚で、近所の人からあれこれ言われることがある。
・「三世代同居」や「幸福度日本一」などの型にはまった価値観は現代の若者に合わない。
・嫁に来るのは「当たり前」、婿が来てくれるのは「感謝」と考える傾向がある。
・空き家の利活用策などに多額の予算をかける割に成果が上がらず、行政が踏み入る領域ではないのではないかと感じる。民間に任せるところは任せた方が上手くいく。
・多様な生き方が認められておらず求められる人物像が固定化されている。
・県民が自信を持っていない。自分の県のことを誇っておらず、謙虚な人が多い。
・県民の福井愛をもっと強くしなければならない。
・変化を嫌う。経営者はビジネスチャンスがあったとしても現状で満足し、チャレンジしないことが多い。
・福井の中だけで完結できると思い過ぎている。それでは文化も金融も回らない。
・視野（世間）が狭く、北陸三県しか見えていない。
・北陸三県の中でも特に閉鎖的である。
・人があまり外に出ていかない点を改善する必要がある。

○子育て

・短期間で子どもを預けるところがない。
・県外から来た母親は、もともと友達が多い地元のママ友の輪の中に入っていきづらい。
・娯楽的な要素や、子供を休日に連れていく場所が少ない。
・ファミリー向けのスポットが少ない。

○教育

・学力日本一というが、福井型の教育は決まった答えを導き出す能力を重視したものであると感じる。これからの時代は自由な発想を育てていかないといけない。
・親が関わる子どもの行事や宿題が多すぎるため、過大な負担となっている。
・ふるさと教育が行き過ぎていて、中学生の子が県外・国外に行かなくてもいいという考えになることが不安
・高校までの教育レベルは高いが、地元の大学のレベルがそれに追いついておらず優秀な学生は大学段階で福井を離れてしまう。

○産業、技術、労働

・チャレンジを受け入れる土壌がなく優秀な経営者やアーティストが県外に出てしまう。
・働きがいの感じられる職場の増加が必要
・能力の高い子どもが育っても、その子が仕事を通じて高いレベルで活躍できる環境が少なすぎる。職業、収入とも、高い水準を求める人間は都会に出ざるを得ない。

○観光

・観光資源がライン化されていない。
・観光と買い物と宿泊の連携強化が必要
・東尋坊や恐竜博物館など素晴らしい観光施設があるが連携が弱い。
・観光スポットが駅から遠いにもかかわらず、電車やバスが不便
・都会と比べて競争が少ないため、事業意欲が低く、観光客を迎えられる体制ではない。せめて電気は付けるなど、最低限お客様を迎えられる体制を整える必要がある。
・観光地が少なくて他県の人が福井にいく理由がない。

○まちづくり

・公共交通機関が弱く、車が必須である。車社会にならない為の交通環境の整備が課題
・今後の高齢者ドライバーの増加や環境に配慮した対策の実現
・車がないと生活ができない。
・大阪、東京など大都市から遠くて交通が不便
・文化施設などを作る時に郊外に点在させてしまい、結果的に車移動できないと利用できない施設が多い。
・地域鉄道の本数が少なく、値段が高い。
・嶺南、嶺北の交通格差。嶺南は避難経路が少なく、道路整備も嶺北が優先されている。
・嶺北と嶺南の関係性を改善した方がよい。
・関西エリアからのアクセスが良いのにもかかわらず、近畿圏内ではないので遠いというイメージがある。このイメージを壊すことから始める必要がある。

・関西は嶺南に対し馴染みがあり、Ｉターンや観光客誘客もし易いはずなので、関西圏とのつながりを改善すべき。
・新幹線が開通しても通過するだけの県になりそうで危惧している。
・新しい建物ができるだけで、さほど賑わってもいない駅前商店街
・目先の整備や誘致が多い。お金をかければできるものは 10～20 年ほどで廃れるので、再整備や新規事業を繰り返すことになってしまう。
・若者などが気軽に入れるファーストフードなどの飲食店が少ない。
・生活するには困らないが、若者が働ける職場や楽しめるショッピングセンターなどの施設が少ない。
・外国人が来たいと思える場所づくりが必要
・日本一のなんとかという指標は、ほとんど意味がないと思って欲しい。仮にそれに意味があるとしたら大逆流が起きていたはず。

○伝統、文化

・福井県民は文化的な面を軽視しているように感じる。
・歴史的、文化的に価値のある史跡や記念碑などが、観光資源として十分に活用されていない。

○発信力

・県内の観光資源を有効に活用し、多くの人達に福井県の良さを知ってもらう努力が画一的で、国県市町と鉄道・民間企業の融合に欠けている。
・恐竜という強いコンテンツがあるが、露出の仕方が下手。駅前にでかでかと設置するというより、勝山の恐竜博物館までが遠いので、そこまでの導線をもっと工夫すべき。
・「学力ナンバー１」や「運動力ナンバー１」、「貯蓄率ナンバー１」など、プラスイメージの発信力が弱い。
・県民が発信できていないからか、他県の人が福井の良いところに気づけていない。
・金沢に比べ知名度が低い。

（3）望ましい将来像

○自然、食

・近代化を図るのではなく、自然を活かした唯一無二の存在となること
・いつまでも自然の豊かさと優しさ、伝統的な文化に溢れた県とすること
・自然と都会の共有ができる町にすること
・自然豊かな環境を残したままベッドタウン化により人口を増加すること
・福井県の魅力である海、山、川、自然がライフスタイルに含まれるようなアピールをし、富裕層が多く住む地域を目指すこと

○家庭、地域

・家庭や地域のつながり、お互いの支え合いによって高齢者も生活しやすい県にすること

○チャレンジ

・いろんなものや事柄にゆったりと繋がりながら、いろんなことに挑戦しやすい今の環境を持続すること

○子育て

・子育て層が安心して住める環境を整備し、移住者を増やすこと
・出生率の向上のためには、３人っ子政策ではハードルが高い。最初の１人を産み育てる際のサポートを厚くすること

○教育

・観光面の施策より、学力・体力を活かした教育面での施策を重視すること
・教育が良いと言われているので、そこに特化していくこと
・福井県で育った人が戻って来たくなるような経験を幼少期から積極的に行うこと
・教育力という福井の良さを生かし、都会の子どもを福井へと「教育留学」させる。数週間のスパンで実施している例があるが、数年単位で実施できると良い。行政はそのための施設（宿舎）を整備すること
・学校教育が良い点を生かし、インターン制度や水産高校でやっていた販売等を、地元の会社の協力を得て学校で実施すること
・中核となる大学を養成もしくは誘致して、筑波学園都市のような学園都市を目指すべき。中核となる大学があれば、産学連携を求めて民間企業も集まりやすくなり、今以上に雇用の場も増える。米国のボストンのような街づくりを目指すこと

○産業・技術、労働

・幸福度ランキングの優位性を県内、特に福井市以外でも生かせる企業、環境があること
・エンターテイメント、遠隔教育、遠隔医療・介護、防災、AI・ロボット開発などでソフトクリエイトを中心とした産業が活性化すること

・社長輩出日本一を今後も守りながら、ベンチャー創出に注力すること
・ある程度、産業が発達し人口が増えるとともに自然に優しい町作りを行う。そのためには、企業誘致、人口増加、税金・内需増加、自然保護等の循環のために投資すること
・日本の中でどうあるべきかという感覚ではチャンスがない。これからの時代、どこにいても仕事はできるし、仕事をするのに東京を介さなくてもよい。いかに世界の都市と直接つながるかを考えること
・第１次産業に対するIoT化はこれからの成長産業。世界中の企業が先駆者となるべくモデルとなる場所を探しているので、他に先駆けて関連企業を誘致すること
・ＪＡを通さない販売方法などが注目されがちだが、ＪＡを通して儲かる農業を実現すること（農業のスマート化が進んでいるため、兼業農家でも十分にやっていける）
・国家プロジェクトとして原子力と代替エネルギーの一大研究開発拠点を福井に。新エネ分野で、関西学術機関とも連携して世界的な拠点整備と人材を集積させること
・職場がないと、若者は、出て行くので、研究機関や企業の誘致を行うこと
・大企業の工場誘致などにより雇用を増加させること
・電気料金の安さを強みに、データセンターを誘致したり、日本の中心に位置し、敦賀港も持つアクセスの良さを活かし物流業を誘致すること
・若者が魅力に感じる「働く場所」を増やすこと
・仕事があり、若者が自立して生活できること
・都市部ほどの便利さはないが、豊かな生活ができて、ITが充実することにより福井からでも、大都市圏や海外へ進出できるような、仕事環境が必要。都会からの優秀な人材を、ストレスのない福井に呼び込んで、事業を拡大してもらうこと
・地元と企業が一体となってワーケーションができる場をつくること
・外国人労働力を積極的に受け入れること

○観光

・京阪神にも近く、新快速も来ている事から、観光産業含め人の往来に期待する。若狭地方は歴史もあり風光明媚な観光スポットも生かして楽しめる場所とすること
・大阪、名古屋、金沢に近い地理的位置を生かした観光、レジャーを開発すること(恐竜をもっと生かした恐竜都市構想など)
・県外の旅行客に「また来たい」と思ってもらえる雰囲気のある町にすること
・日帰りで来られる、関西における淡路島のような身近な存在になること
・観光名所があり、若い人達の新しい取り組みがなされ、全国から行きたい場所として、クルーズ船停泊も企画されるような魅力ある街にすること
・外国人が訪日して「最も日本らしさを認識できる地」であるとよい。例えば、「鯖江・越前市など伝統工芸地域は、古代のシリコンバレーであった！だからこそ、そこには富や情報が集まり、継体天皇が即位できる政治力や武力を備えることができた」というようなストーリーを仕立て、さらに現在に続くストーリーを描き

つつ、現代と古代の日本の原風景を体現できる県にすること
・あえて目新しい人工的な観光の目玉を作るのではなく、そのままの福井、そのままの福井の味を提供すること

○まちづくり
・住む人の満足度が上がる、人口に見合ったコンパクトで集中投資型の都市建設を目指すこと
・歴史と文化の豊富なコンパクトで居住性の高い都市、豊かな自然とレジャーが詰まった町にすること
・ある程度の生活レベルで、安定して暮らせる社会、職場、生活の場が、あまり離れていない範囲で集まっていること
・駅前にいつでも集まれる広場的な空間とその周りに観光やショッピング、飲食ができる建物がある町にすること
・各商店の事業意欲が高く、活気にあふれていること
・観光客も地元の人も楽しめる商業施設があり、賑わっている風景があること
・中央公園を中心にして展開するため、福井城の公園化が必須。県庁は早く移転し、福井城の復元とランドマーク化を実施すること
・宿泊施設、レジャー施設を充実すること
・まず福井市の魅力を上げ人が集まるようにした上で、人の流れを周辺に波及させること
・まずは住んでいる人が満足できる都市の構築と豊かな歴史遺産などの復元（福井城、平泉寺中世都市、繊維都市の記憶）、再興（敦賀国際港）を行うこと
・早期に北陸新幹線を開通させ、大阪、東京と繋がることで交流人口を増やし、関西方面が通勤・通学圏内となること
・北陸新幹線延伸をきっかけに観光客の誘致、増加が図られまち全体に活気が出ること
・高速交通網が一段落したら、県内輸送の高密度化が大事。特区構想などで、多目的電気バスを 10 分刻みで動かしてはどうか。人はもちろん、公共材の運搬や宅配便などの中継も兼ねるようにすれば温室効果ガス削減にもなり、バス自体が観光資源にもなる。地元の公共交通機関の経営圧迫にならないよう官民コンソーシアムを組むこと
・人と自然が身近な土地で県内外の人が観光や文化を通じて適度な交流が生まれること
・生産と廃棄、若者と高齢者、そして、経済や人の交流も循環しやすいまちづくりの手本となること
・人口減少時代にあって、県外在住者でも福井県の議員、職員として働いてもらえるように、県政のエージェント、サポーターを県外要所に配置し、多様な視点から魅力ある福井県をプロデュースすること
・県境が接している滋賀県、京都府、あるいは大阪府と合併を行うこと
・二拠点生活で経済負担が二重にならないよう、都会の有力自治体との提携を高め税金・移動費・住居費等の負担軽減策を講じるすること

・ＩターンでもＵターンでもなく、常に大都会にも福井にも拠点があるのが理想。在宅勤務が当たり前になり、経済負担を軽減すること
・福井の人は金沢と比較して地元に足りないものを語るが、金沢を目指す必要はなく、福井県なりのまちのあり方を考えていくこと
・都会に寄せるのではなくありのままの自然を生した感動体験できる場を提供すること
・日本の中で小さいながらも凛として輝ける県にすること
・雪をポジティブに捉え、雪が降るからこそ福井に住みたいという思いになる工夫、知恵、施策を本気で考えること
・関西圏のベッドタウンとして共住人口を増加すること
・北陸というよりも関西圏という意識をもつこと
・越前と若狭の見えない壁を撤去すること
・「若狭」とか「越前」ではなく、「福井県」として他県に知られるようになること。それには嶺北と嶺南が交流し、県民がもっと県内のことに興味を持つことが必要
・敦賀などに国際線が発着できる空港を整備することにより、国際化を行うこと

○人材

・県民がもっと見る目を養うこと。外の文化を入れることを恐れないこと
・郷土の出身者（故人含む）をもっと有名にすること
・「日本一の革命家地域」と呼ばれるアイデアの宝庫として面白い県を目指すこと

○安全、安心

・老後、Ｕターンしてみたいと思うような環境のある町にすること
・適度に人口も減り、適度な自然と伝統文化がある豊かな土地。そこに住む人も、訪れる人も、その風景と雰囲気の豊かさから、心の余裕が感じられること
・安心して暮らせる環境が整うこと
・ある程度の生活レベルで、安定して暮らせる社会、職場、生活の場が、それほど離れていない範囲で集まっていること
・幸福度日本一が続いていること

○伝統、文化

・古代からの伝統を引き継ぎ、日本らしさを具現化した「落ち着いた福井県」であること
・ないものはとにかく連携し、繋がりを重要視しながら他にはない文化を築くこと
・コンサート、スポーツ、芸術などイベント集客との連動、農林水産業体験、滞在型レジャーの充実により、イベントが切れ目なく開催され、国内外の滞在者でにぎわうこと
・新幹線開通により大阪や京都のベッドタウンとして、治安もよく教育環境の整った地域であること

○発信力

・福井ブランドがたくさんあるが、知名度が低く、田舎のイメージが強いので自然を大切にしたまま何度も足を運びたくなるようなブランド、魅力あふれる県にすること

・関西、中部圏に近く「奥座敷としての歴史・観光・滞在型リゾート都市」としてインフラ整備と宣伝を強化。目玉的キャッチフレーズを考え、支援策を検討すること

・東京にいる限り、福井の情報は自然には届かない。普通に広報をやっていたのでは無意味であり、積極的に個々人に働きかけること

（4）将来像を実現するために必要なこと

○自然、食

・歴史や自然、受け継がれたものを、如何に見せて如何に残していくのかに力を入れる。
・身近な自然環境など、地域資源をもっと県外に発信していく。

○家庭、地域

・Ｉターンを進めるのであれば、地元が外の人を受け入れる下地を作る。
・移住者に対し、すでに移住していて地域に溶け込んでいる先輩がフォローする。
・年配者と若者世代、行政と住民の間にわだかまりが見受けられる。地域を良くしたいという思いは同じだと思うので、各者が視野を広げ、上手く連携する。
・地域おこしのため、外部の人が来てくれさえすれば活性化するという考えでは絶対にうまくいかない。まずは地元の人が地域をどうしていきたいかを考える。
・空き家所有者が市の情報バンクや不動産に情報を提供しないことが多く、新規創業者の選択肢が少ない。情報共有のための環境をつくる。
・自治体がまず市民の意識改革を行い、「誇れる福井。愛すべき福井」を全員の意識の中に強烈に刷り込んでいく。
・指標の積み上げによる点数上の幸福度ではなく、自らが「幸せ」と感じる人の比率で全国一の幸福県をめざす。
・シングルマザーやＬＧＢＴなど多様な生き方が当たり前になってきているが、福井ではまだまだ特殊な存在という扱い。多様な価値観が受け入れられるような社会にする。
・地域と地域外の人が交流し刺激しあう。人と自然（環境、資源、生物）とのつながりや自分達で地域を育む意識をそれぞれの世代が持ち、大切にしていく。

○子育て

・固定資産税等の優遇により大家族制度を復活させ、安心して子育てができる環境整備により少子化問題に対応する。
・少子化している分、子供たちへの投資を手厚く行う。
・子育て支援、介護支援施策を拡充する。
・若い世代から中間世代までの幅広い子育て、教育を支援する。・子育て世代の抱く、親の介護に対する不安、県内情勢の懸念による職場に対する不安、年金に対する不安等を解消する。

○教育

・県民が福井の良さに気づけていないのでもっと自信を持つ必要がある。地域教育の推進や、県民が福井の良いところを回るツアーの企画により、福井の人たちがもっと自信を持ったうえで、主体的に他県の人たちに発信する。
・勉強だけでなく、自分の個性を育てていく。
・福井県の生産性の向上や輝かしい未来のため、インフラの整備よりも人を変える。

・高校卒業時の優秀な学生が、地元の大学に進学して、地元に就職する流れを作る。

○産業・技術、労働

・県外企業を誘致しても、人手不足の時代には地元中小企業の人手不足を圧迫する。企業誘致ではなく、福井の地元企業が起業創業し、成長するためにサポートすべき。誘致資金を地元企業の育成に向け、法人税増加や、本社人財の需要にもつなげる。
・新しい価値を生み出そうとしている人や、リーダーシップを発揮できる人材のバックアップをより手厚いものにする。
・脱原発は容易ではないだろうが、あえて、まず掲げることで県民全体が新しい発想のスタート点に立つと思う。
・税制優遇などにより企業誘致を促進、そして雇用を確保する。
・若者が働きたくなる職場をつくる。
・ワールドワイドで活躍する企業を誘致する。
・ＩＴ企業を都市部から誘致し地元からの採用に対して助成する。
・商業特区を作り法人税を優遇し大手企業を誘致する。
・ベンチャー創出・誘致に関し、業種を絞った１点突破型の戦略を策定する。
・最低賃金を上げる。
・都市部の人材を「兼業・副業」で、福井に受け入れるとよい。受入企業にとって、知的財産の問題にさえならなければメリットが大きい。福井県がそのロールモデルとなる。

○観光

・恐竜仕様のレンタカーを用意するとか、サファリパークのバスの恐竜版のシャトルバス走らせるとか、恐竜に寄せたカフェやグッズを販売する店を福井駅内外に儲けるとか恐竜と絡めて県内の関係ないところも巡れるようにするなど、やるなら中途半端にではなくとことんやる。
・福井の観光案内（ミニ恐竜館、カニ市場、おろしそば屋台、さば酒場、幕末雄藩歴史屋敷などなど）を駅前に。その流れで駅前回遊できるような駅前デザインが理想。まずは地元の人が利用でき、リピートできるような場所にする。
・県下での連携を強め，嶺北→嶺南、嶺南→嶺北といった流れをつける。まずはお互いの地域をよく知る。
・特に福井市内は現状何もないので、観光コンテンツを増やす。

○まちづくり

・県外、特に都市部に住む人たちに対し、日本の原風景の中にある古民家で、「何もしない贅沢」というテーマでアプローチする。
・娯楽は金沢や京都に行けばいくらでもあるのだから、あえて福井にある必要はない。福井に都会らしさは全く求めていない。
・都会は目指さずに今の福井の良さを引き出してこれからにつなげていく。
・都会の真似をしない。

・北陸新幹線を早期開通し、交通網を発展させる。
・交通インフラをさらに整備する。
・関西圏への一層の交通アクセスの向上を図る。
・空き家等を活用した体験型ミドルステイ施設の拡充で移住促進を図る。企業のサテライトオフィス展開も含め「福井を体験する」を主眼に展開。さらに、最終観光目的地ではなくテーマ型中間観光目的地も創出し、観光目的の流入を目指す。
・駅前などの交通機関徒歩圏に文化施設、商業施設、観光施設などをできるだけ集中し、なにもなくても行くと楽しい場所を作り、活気を作り出す。
・福井のランドマーク的な場所を駅前に集中的に作る。
・大手量販店の誘致により消費コンテンツを拡充する。
・芸術家を含めた若い人達が集える場所を開発する。
・コンパクトシティー化を実現する。
・人口減少は既定路線で、他の都道府県と競争をしたところで勝率は極めて低いので、減る前提で目指す将来像に向かってグランドデザインを描く。
・人口減少対策や、集落支援対策の予算を徐々に削り、目指す将来像に対して積極投資するなど、予算の選択と集中を徹底する。
・自然環境と関西・中部圏への近距離を原資に誘導インフラ整備を思い切って進め、民間事業協力者も募りインパクトのある事業展開を図る。関東の軽井沢・野尻湖国民休暇村的なイメージに寺社・仏閣・美術館等を加え文化、芸術性の高い福井に特化する。
・まず何を残すのかを議論し、繋がりを継続または構築することが重要。そのために色んな人に触れ合えるシステムをつくる。
・現在進めている福井県の中心市街地の活性化策は、網羅的で、また対象エリアも大きくコンパクトシティーになっていない。
・県、市町が「利害得失に惑わされることなく、強い意志をもって」長期ビジョンを策定し、ぶれることなく県民のコンセンサスを強力にリードする必要がある。
・国全体で人口が減る中、相対的に一定の人口を維持する必要があり、そのためには、経済基盤の拡充（都道府県合併）、割り切って住まないエリアを選定する。
・移住・定住したい若者がもっと気軽に滞在できる環境づくりが必要。具体的には、ゲストハウスは人と交流したい人には良いが、敷居が高いと感じる人もいる。他人に干渉されたくない人用に、カプセルホテルをつくるなど、多様な選択肢を提示する。
・空き家の活用により、潜在的な創業希望者を掘り起こす。
・交通の便が良くなり、関西だけでなく関東からも福井に来る方が増えるので、観光そのものではなくて、福井の魅せ方をもっと考える。
・新規店舗の増加により商店の競争力を向上する。
・福井で育った人には当たり前になっていることが他県から見ると最大の魅力だったりもするので、外からの視点を取り入れつつ違った考え方、感じ方を受け入れていく。
・暮らしやすい、子育てしやすい、学力が高い、幸福度ナンバーワンというふわっとしたイメージを、具体的に因数分解して明確に実感できる施策を行う。

・全国に誇れるものを官民一体となり徹底して作り上げる。
・道州制など、県市町の垣根のない広域化を行う。

○医療、福祉

・目安として国民年金の老齢年金だけで衣食住に不安なく生きていけるようにするための住宅対策、就労環境の整備を行う。

○安全、安心

・有利な税制、病院、魅力ある老人ホーム等により老後住みやすい社会環境を実現する。

○発信力

・何もなくてもポジティブに生き、みんなで発信する。
・福井に住む一人ひとりがもっと福井をどうしたいか、どうPRしたらいいかを考える。
・県民であることを誇りに思い自信をもってPRしていく。